

I. 日本鳥類目録改訂第7版で新たに掲載された種および亜種の記録等について

池長裕史・川上和人・柳澤紀夫
(目録編集委員会・記録グループ)

1. 記録のカテゴリーについて

目録編集委員会では、日本鳥類目録改訂第5版(日本鳥学会 1974: 以下「5版」という)および日本鳥類目録改訂第6版(日本鳥類目録編集委員会 2000: 以下「6版」という)で掲載が見送られた種・亜種への検討において、カテゴリーを設けて掲載の基準を定めている(池長ら 2012)。日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会 2012: 以下「7版」という)においては、5版および6版における掲載の考え方を基本的に踏襲した。5版および6版では、亜種が不明な場合は、種が判定されても掲載を見送られていたが、7版では、日本の鳥類相の実態を記録することを優先し、該当種の亜種が不明の場合も目録に掲載することにした。

7版の日本鳥類目録では、池長ら(2012)に示した通り、以下の基準を満たすと判断された種および亜種を新規に掲載した。

カテゴリー A: 目録本文への掲載 (亜種未判定を含む)

判定基準: 論文または引用可能な写真あるいは参照可能な標本があること。

A1: 鳥学会誌等の査読論文として発表されている場合は、基本的に掲載する(ただし、論文自体に自然分布を疑う主張がある場合は、当委員会が判断する)。

A2: 十分に識別できる引用可能な写真を掲載した刊行書籍等がある場合、または、参照可能な標本がある場合は、それらに基づき当委員会で判断する。

A3: 種および亜種の区分について分類上の検討が必要な場合は、分類グループの対応を踏まえ、当委員会で判断する。[検討上のサブカテゴリーであり、検討状況によってはカテゴリー D (記録要検討種)となることもある]

和名の取り扱いについては、7版の「はじめに」に記しているほか、7版で新たに付した名称が若干見られるが、この点は別途解説が準備されつつあるので、本稿ではこの理由については触れない。

なお、各記録の出典となる原著論文および刊行書籍等は、原則として2011年12月末までに発行されたものに拠ったが、7版への掲載確認後に出版された記録についても可能な限り盛り込む方向で検討を進めた。

2. 7版で新たに掲載された種および亜種の記録について(番号は目録に付された各種・亜種の番号)

Part A 日本鳥類目録

Order ANSERIFORMES カモ目

Family ANATIDAE カモ科

ANSER Brisson マガン属

12. *Anser indicus* (Latham 1790) インドガン

本州(AV:千葉,長野),小笠原群島(AV:父島 1986年2-4月),多良間島(AV:2006年10月)等。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら(2012)を参照されたい。その後、2012年5月に石川県舳倉島上空を通過し(平野 2013)、佐渡で越冬した2羽の事例(近藤 2012; 日本野鳥の会佐渡支部 2013)や、2012年10月7日に沖縄県石垣島で観察、撮影された事例(2012年10月9日付け沖縄タイムス記事; 小林雅裕 私信)、2013年3月末~4月中旬に沖縄県金武町で観察、撮影された事例(高原建二 私信)がある。

なお、本種については桐原ら(2000)、沖縄野鳥研究会(2010)、砂川(2011)等の刊行図書(写真図鑑)に掲載されているが学術誌等への報告としては高原ら(2008)のみであり、これには写真等が付されていない。

13. *Anser caerulescens* (Linnaeus 1758) ハクガン

13-2. *Anser caerulescens atlanticus* (Kennard 1927)
オオハクガン

北海道(AV:1994年3月等)。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら(2012)を参照されたい。

なお、星子(1997)以外に学術報告がなく、そ

の他の記録について、今後の発表を期待する。

NETTAPUS Brandt ナンキンオシ属

25. *Nettapus coromandelianus* (Gmelin 1789) ナンキンオシ

25-1. *Nettapus coromandelianus coromandelianus* (Gmelin 1789) ナンキンオシ

本州 (AV: 大阪, 2010年5月), 多良間島 (AV: 2010年6月), 与那国島 (AV: 1972年3月).

【記録の出典について】

本種は5版において掲載が見送られていた種であり, 過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

佐竹ら (2011) および羽地ら (2011) の報告により, それぞれ大阪および多良間島の記録が確認された。

ANAS Linnaeus マガモ属

31. *Anas luzonica* Fraser, 1839 アカノドカルガモ
与那国島 (AV: 1987年3月, 2005年4月).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

フィリピン諸島に固有種として分布し, ルソン島, マ斯巴テ島, ミンドロ島, ミンダナオ島で記録されている。留鳥として周年同所で滞在し, 亜種は認められていない (del Hoyo et al. 1992)。非繁殖期の漂行とされる記録がフィリピン全域であり, 1985~1988年に台湾でも記録されている (王ら 1991)。

(2) 記録の経緯

1987年3月14日に沖縄県与那国島クブラミトで2羽が川澄泰之氏により観察, スケッチされており, また4月6日にも加藤博之氏により同個体が観察されているが, いずれも写真撮影されていない (日本野鳥の会野鳥記録委員会 1988a, 1988c)。その後, 2005年4月18日に与那国島において1羽が観察, 撮影されており, 写真図鑑等に掲載されている (森河・森河 2008; 桐原ら 2009; 宇山 2011)。

(3) 同定と分布に関する知見

嘴は鉛色。頭部は顔が橙褐色で, 頭頂と過眼線は暗褐色。体は一様に褐色をしており, 雌雄同色。色彩的特徴から他のカモ類との識別が可能である。

1987年の記録については, 観察者によるスケッチが残されているのみであるが, 本スケッチには,

本種の特徴である青灰色の嘴と黒い嘴爪, 頭部の色彩パターンおよび羽色が詳しく記載されている。

2005年4月の記録については, 本種の特徴を捉えた写真が公表されており, 本種が与那国島で観察されたことに疑いはない。

フィリピンの固有種で留鳥とされているが, フィリピン諸島内で季節による漂行は知られており, 台湾でも記録されていることから自然分布と判断した。

なお, 本種については上記の刊行図書 (写真図鑑等) に掲載されているのみであり, 学術報告が待たれる。

33. *Anas discors* Linnaeus, 1766 ミカヅキシマアジ
本州 (AV: 愛知, 岐阜, 1996年1月).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

カナダ南部, アラスカ南部から北米中北部で繁殖し, 北米南部から南米北部に渡って越冬するが, ヨーロッパの大西洋側やハワイ等への迷行例も記録されている。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

1996年1月1日に岐阜県各務原市と愛知県丹羽郡扶桑町の間を流れる木曾川で観察, 撮影された雄1羽の記録が知られている。日本野鳥の会研究センター (1996) および日本野鳥の会野鳥記録検討会 (1997) に報告があり, 桐原ら (2000) にも掲載されているが, 6版には掲載されていない。

(3) 同定と分布に関する知見

発見者による学術論文が発表されており (伊藤 2005), 同定と分布についても述べられている。

その後, 本種とされる記録 ((財) 渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団 2010 など) も見られるが, 目録掲載に足る情報は公表されていない。

Order COLUMBIFORMES ハト目

Family COLUMBIDAE ハト科

COLUMBA Linnaeus カワラバト属

70. *Columba oenas* Linnaeus, 1758 ヒメモリバト

70-U. *Columba oenas* ssp. 亜種不明

飛鳥 (AV: 1984年11月), 舩倉島 (AV), 見島 (AV), 対馬 (AV), 九州 (AV: 鹿児島, 1995年12月), 奄美大島 (AV: 1993年6月), 沖縄島 (AV: 1992年11月)。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら(2012)を参照されたい。

2亜種に分けられている(del Hoyo et al. 1997)が、現時点では国内の記録について亜種の判別はされていない。

PTILINOPUS Swainson ヒメアオバト属

80. *Ptilinopus leclancheri* (Bonaparte 1855) クロアゴヒメアオバト

80-1. *Ptilinopus leclancheri taiwanus* Ripley, 1962
クロアゴヒメアオバト

西表島(AV:2004年8月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

主にフィリピンに分布し、del Hoyo et al. (1992)では3亜種を認めている。フィリピンのほか、台湾の蘭嶼にも分布しており、del Hoyo et al. (1992)では蘭嶼とフィリピン北部に分布する亜種を *longialis* としている。del Hoyo et al. (1992)は亜種 *taiwanus* を認めていないが、菊地ら(2008)によって整理された。

(2) 記録の経緯

2004年8月26日に沖縄県西表島で1羽の落鳥個体が発見された。

(3) 同定と分布に関する知見

菊地ら(2008)による詳細な学術報告がある。これまで、国内では唯一の記録と思われる。

Order GAVIIFORMES アビ目

Family GAVIIDAE アビ科

GAVIA Forster アビ属

84. *Gavia immer* (Brünnich 1764) ハシグロアビ
北海道(AV:稚内, 2003年4月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

北米北部、グリーンランド、アイスランドで繁殖し、冬はカリフォルニア湾、メキシコ湾岸、フロリダの大西洋岸に渡る。また、少数がヨーロッパやモロッコ沿岸、バルト海や地中海に渡ることもあり、アリューシャン列島からの記録もある。亜種は認められていない(del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

本種と考えられる観察例として、岩手県吉浜湾(1992年2月)、青森県砂森(1995年5月)の記録があるとされているが(真木・大西 2000)、写真を含め詳細について発表されていない。2003年4月2日、北海道稚内港において1羽が観察、撮影されており、森岡・初野(2003)による報告がある。

(3) 同定と分布に関する知見

本種の外部形態は羽色、サイズともにハシジロアビ *G. adamsii* に似るが、嘴はハシジロアビのように反っておらず、まっすぐで黒い。

公表された本個体の写真からは、下嘴のカーブが上嘴のカーブと比べて、ハシジロアビほどの差がないこと、上嘴の上辺が先まで暗色であることがわかり、本種と同定される。4月でこの羽衣と嘴とであることから、本個体がほぼ第1回夏羽であることを示唆していると考えられる。翕と、肩羽前部に見られる三日月型の羽縁は未換羽の幼羽のものと同定される。

本種はアリューシャン列島でも繁殖していることから、自然渡来はあり得る。

本記録は写真図鑑(桐原ら 2009)にも掲載されているが、学術報告はなされていない。その後、2012年4月16日に北海道稚内市抜海漁港で観察、撮影されている(佐藤 2012)。

Order PROCELLARIIFORMES ミズナギドリ目

Family PROCELLARIIDAE ミズナギドリ科

PUFFINUS Brisson ハイロミズナギドリ属

103. *Puffinus creatopus* Coues, 1864 シロハラアカアシミズナギドリ

本州(AV:福島, 1982年6月, 千葉, 1999年2月, 2008年6月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

チリ沖のファン・フェルナンデス諸島とモカ島で繁殖し、非繁殖期は東部太平洋に広く移動する。亜種は認められていない(del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

2008年6月28日に千葉県銚子沖で1羽が観察、撮影されているほか、東京-釧路航路での観察記録がある。

(3) 同定と分布に関する知見

矢吹・森岡(2010)に写真と共に観察時の記録

と同定の経緯が報告されており、学術報告ではないが、掲載要件を満たしていると判断した。

本記録の他に、写真撮影はされていないが、釧路-東京航路の福島沖（1982年6月24日）と東京-釧路航路の犬吠埼沖（1999年2月19日）の記録（宇山 2012）が報告されている。

106. *Puffinus puffinus* (Brünnich 1764) マンクスミズナギドリ

本州（AV：三重，2004年5-7月）。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

大西洋北部の島々で繁殖し、非繁殖期は南北大西洋に広く移動する。亜種は認められていない（del Hoyo et al. 1992）。

(2) 記録の経緯

2004年5月下旬～7月に三重県津市の御殿場海岸の海の家「グリル・にっぽんや」に連日のように夜間に飛来した1羽が、繰り返し保護され、その都度、翌朝放鳥された。

(3) 同定と分布に関する知見

小型のミズナギドリ類で、同個体は、当初、セグロミズナギドリ *P. lherminieri* と同定され報道されていた（多田 2004；2004年7月3日付け中日新聞記事）。桐原ら（2009）は、頬の黒褐色部の模様が異なること、翼下面前縁と後縁の黒色帯のバランス等から本種とする同定しており、目録編集委員会でもこの判断を支持する。

本記録は、桐原ら（2009）に掲載されているのみであり、保護時の測定値等の学術報告が待たれる。

本記録の他に、気仙沼沖（2011年7月16日）で本種の可能性が高い観察情報があるが、印刷物としては報告されていない（古山 隆 私信）。

107. *Puffinus newelli* Henshaw, 1900 ハワイセグロミズナギドリ

小笠原群島（AV：父島，2006年11月）。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

ハワイ諸島で繁殖し、非繁殖期も周辺海域で記録されている。del Hoyo et al. (1992), Dickinson (2003), Clements (2007) では、*P. auricularis* の1

亜種とされているが、Onley & Scofield (2007) 等では独立種としている。

(2) 記録の経緯

2006年11月1日に東京都小笠原村父島で保護された1羽について、桐原ら（2009）に掲載されている。

(3) 同定と分布に関する知見

小型のミズナギドリ類で、体上面が一様に黒く、下面の白色との対比が際だっている。桐原ら（2009）に掲載されている写真と特徴は、本種の特徴と合致し、同定を支持する。

本記録は、上記の写真図鑑（桐原ら 2009）に掲載されているのみであり、保護時の測定値等の学術報告が待たれる。

109. *Puffinus bryani* Pyle, Welch & Fleischer, 2011 オガサワラヒメミズナギドリ

小笠原群島（IV：母島，1997年4月，父島，2005年1月等）。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

1963年2月18日に、ハワイ諸島北西部のミッドウェー環礁サンド島で小型のミズナギドリ類が採集され、ヒメミズナギドリ *P. assimilis* と考えられていた。アメリカ国立自然史博物館に保管されていた標本が再調査され、ヒメミズナギドリにしては尾が黒くて長いこと、体がより小さいこと等が判明し、DNA型の確認によりハイロミズナギドリ属の新種として2011年に記載された。また、同種と思われるミズナギドリ類が1991年～1992年の冬に観察されていることから、同種は1990年代まで生存していたとされ（Pyle et al. 2011）、その現存の確認が求められていた。

(2) 記録の経緯

一方、1997年以後に父島と母島で各1個体、2つの無人島で4個体、合計6個体の小型のミズナギドリ類が確認されていた。このうち5個体は死体で発見されたが、1個体は衰弱して保護された後に死亡しており、全て標本として保管されている。この6個体の標本について、ミトコンドリアDNAの分析を行ったところ、全個体が本種のDNAと一致し、また形態的にも、近縁の種に比べて体が小さく尾羽が長いという特徴を持っており、本種と判断された（Kawakami et al. 2012）。

(3) 同定と分布に関する知見

学術報告されていると同時に全て標本が残されており、DNA型で確認されている。

Order SULIFORMES カツオドリ目

Family SULIDAE カツオドリ科

SULA Brisson カツオドリ属

124. *Sula leucogaster* (Boddaert 1783) カツオドリ

124-2. *Sula leucogaster brewsteri* Goss, 1888 シロガシラカツオドリ

八重山諸島 (AV: 仲ノ神島, 2009年5月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

カツオドリには4亜種に分けられているが、本亜種はカリフォルニア湾からメキシコ沖の東太平洋に分布するとされる (del Hoyo et al. 1992; Dickinson 2003)。

(2) 記録の経緯

2009年5月17日に沖縄県竹富町の仲ノ神島で雄成鳥1羽が観察、撮影された。

(3) 同定と分布に関する知見

河野・水谷 (2011) による詳細な学術報告がある。

Order PELECANIFORMES ペリカン目

Family PELECANIDAE ペリカン科

PELECANUS Linnaeus ペリカン属

130. *Pelecanus philippensis* Gmelin, 1789 ホシバシペリカン

奄美諸島 (AV: 奄美大島, 2006年7-9月, 喜界島, 2006年8月)。

【記録の出典について】

P. philippensis は、かつて2亜種 (*P. p. philippensis* および *P. p. crispus*) に扱われていたことがあり、5版では後者をハイロペリカンとして掲載している。このため、本学名がハイロペリカンとして扱われたことがあるが、6版以降ではハイロペリカンは *P. crispus* となっている。

このため、本種については今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

種小名にあるように、本種は最初フィリピン産の個体に基づいて記載され、南アジアに広く分布していたとされるが、現在ではフィリピンでの繁

殖個体群は確認されておらず、インド東南部など南アジアの限定された地域で記録されているのみである (del Hoyo et al. 1992)。

(2) 記録の経緯

2006年7月20日~9月6日に、鹿児島県奄美大島で若鳥1羽が観察、撮影され、同一と考えられる個体が8月19日に喜界島で観察された。当初はモモイロペリカン *P. onocrotatus* の若鳥と考えられていたが (奄美野鳥の会 2009)、その後、形態的特徴について検討され、本種 (報告ではフィリピンペリカンとしている) と判定された。

(3) 同定と分布に関する知見

鳥飼ら (2010) による詳細な学術報告があり、鳥飼・宮田 (2010) にも掲載されている。

これまで、国内では唯一の記録と思われる。

Order GRUIFORMES ツル目

Family RALLIDAE クイナ科

GALLIRALLUS Lafresnaye ヤンバルクイナ属

165. *Gallirallus striatus* (Linnaeus 1766) ミナミクイナ

165-U. *Gallirallus striatus* ssp. 亜種不明

沖縄島 (AV: 2007年10月), 宮古諸島 (AV: 池間島, 2010年5月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

インドから東南アジアに広く分布し、日本の近隣では中国の東南部と台湾に分布している (del Hoyo et al. 1996)。6亜種 (Dickinson 2003) または7亜種 (del Hoyo et al. 1996; Taylor 1998; Clements 2007) に分けられているが、いずれも基本的に留鳥であり、定期的な渡りは知られていない。

(2) 記録の経緯

沖縄島大宜味村喜如嘉で2006年3月26日に本種と思われる1羽の観察情報があったが、撮影されておらず確認に至らなかった (土方秀行 私信)。2007年10月14日に沖縄県金武町の水田で1羽が観察、撮影され、ハシナグクイナの和名で写真図鑑に掲載されている (桐原ら 2009)。その後2010年5月7日に沖縄県宮古島市池間島で1羽が観察、撮影された (砂川 2011)。

(3) 同定と分布に関する知見

桐原ら (2009) に公表された写真から、背面から翼にかけて、および腹の縞模様は特徴的であり本種と判定できるが、非繁殖期にしばしば漂行す

るとされるフィリピンの基亜種はより暗色であることから、沖縄で記録された個体は中国南部に分布する *G. s. gularis* または台湾に分布する *G. s. taiwanus* である可能性が高いと思われる。

その後、2012年9月27日に鹿児島県奄美大島で本種1個体が観察、撮影され、学術報告されている(宮澤・宮澤 2013)。なお同報告では観察地を「竜宮町」としているが、「龍郷町」の誤記と思われる。

PORZANA Vieillot ヒメクイナ属

169. *Porzana porzana* (Linnaeus 1766) コモンクイナ

沖縄島 (AV: 2008年11月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

ヨーロッパから中央アジアにかけての広域に繁殖分布する種であり、非繁殖期はアフリカ南東部またはインド北部一帯に渡る。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 1996; Taylor 1998)。東アジアでは1999年11月に台湾で1羽の迷行が記録されている(方 2008)。

(2) 記録の経緯

2008年11月16日に沖縄県金武町の水田で1羽が観察、撮影され、沖縄野鳥研究会(2010)に掲載されている。

(3) 同定と分布に関する知見

本種はヒメクイナ *P. pusilla* に類似しているが、頭部から胸にかけて細かい白斑が多数みられることが特徴的であり、沖縄野鳥研究会(2010)による種の判定を支持する。台湾への迷行も知られていることから、自然分布と判断した。

なお、本種の記録については、上記の写真図鑑に掲載されているのみであり、観察期間や観察時の行動を含め学術報告が待たれる。

これまで、国内では唯一の記録と思われる。

Order CUCULIFORMES カッコウ目

Family CUCULIDAE カッコウ科

CENTROPUS Illiger バンケン属

178. *Centropus bengalensis* (Gmelin 1788) バンケン

178-1. *Centropus bengalensis lignator* Swinhoe, 1861
バンケン

対馬 (AV: 2008年6月)、八重山諸島 (AV: 西

表島, 2003年12月, 2004年2月, 与那国島, 2001年3月, 2008年3月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

インドから中国南部、東南アジアに広く分布し、5亜種 (del Hoyo et al. 1997; Clements 2007) または6亜種 (Dickinson 2003) に分けられているが、いずれも基本的に留鳥とされている。亜種 *lignator* は中国南部・東南部、ハイナン島、台湾に繁殖分布し、最も近隣に生息する亜種である (del Hoyo et al. 1997)。

(2) 記録の経緯

2001年3月13日に沖縄県与那国島で1羽が観察、撮影され、同月17日にも同個体とされる観察記録がある(本若 2001)。同一の写真が五百沢ら(2004)および沖縄野鳥研究会(2010)に掲載されているが、撮影の日付が異なっている。沖縄野鳥研究会(2010)は、他に与那国島で2004年4月に確認されたとしており、宇山(2011)の記録(4月26日)と思われる。さらに2006年9月23日(森河・森河 2008)および2008年3月25日(中本純市、高原建二 私信)の記録がある。

一方、沖縄県西表島において、2003年12月31日に落鳥した1羽と2004年2月12日と14日に観察された1羽について詳細が報告されている(菊地・松本 2005)。

また、対馬については2008年6月13日~7月14日に対馬市上県町田ノ浜で1羽が観察されている(対馬野鳥の会事務局 2009; 貞光隆志 私信)。

(3) 同定と分布に関する知見

菊地・松本(2005)で学術報告されており、中国南部から台湾にかけて分布する上記の亜種としている。

EUDYNAMYS Vigors & Horsfield オニカッコウ属

180. *Eudynamys scolopaceus* (Linnaeus 1758) オニカッコウ

180-U. *Eudynamys scolopaceus* ssp. 亜種不明

本州 (AV: 愛知, 2005年5月, 大阪, 2007年5月), 飛鳥 (AV: 2007年5月), 九州 (AV: 熊本, 2011年6月, 鹿児島, 2006年7月), 与那国島 (AV: 2005年5月等)。

【記録の出典について】

本種は5版において掲載が見送られていた種で

あり、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

小園・所崎 (2007) による学術報告があり、過去の記録もとりまとめられている。その後、坂梨 (2012) は落鳥の記録を検討し、亜種 *E. s. chinensis* の可能性を報告している。

URODYNAMIS Salvadori キジカッコウ属

181. *Urodynamis taitensis* (Sparman 1787) キジカッコウ

本州 (AV: 千葉, 2008年5月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

10月～翌年2月にかけてニュージーランドで繁殖し、その後、5～9月には南西太平洋の島々 (メラネシア, ミクロネシア, ポリネシア等) へ長距離移動する。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 1997)。

(2) 記録の経緯

2008年5月5、6日に千葉県銚子市で1羽が観察、撮影された。

(2) 同定と分布に関する知見

羽賀・奴賀 (2009) による学術報告があり、これまで、国内では唯一の記録と思われる。なお、同報告では越冬地としてマレーシアを挙げているが、本種はマレーシアからは記録されていない。

SURNICULUS Lesson オウチュウカッコウ属

182. *Surniculus lugubris* (Horsfield 1821) オウチュウカッコウ

182-U. *Surniculus lugubris* ssp. 亜種不明

九州 (AV: 長崎, 1988年5月, 熊本, 2010年5月), 沖縄島 (AV: 2006年4月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

インド南部と中国中南部から、東南アジアに広く分布し、4亜種 (del Hoyo et al. 1997; Clements 2007) または3亜種 (Dickinson 2003) に分けられている。基本的に留鳥とされるが、最も北に分布する亜種 *S. l. dicruroides* は、冬季にはマレーシアからインドネシアにかけて移動する (del Hoyo et al. 1997)。

(2) 記録の経緯

1988年5月11日に長崎県多良見町 (現諫早市) で1羽が観察、撮影され、日本野鳥の会編集室 (1988) の注釈報告があるが、6版では取り上げられていない。その後、沖縄野鳥研究会 (2010) でオウチュウ *Dicrurus macrocercus* として掲載された個体が2006年4月23日に沖縄県糸満市で撮影された本種であることが判明し (同書に記載されている撮影日は誤植: 高原建二 私信), 高原・宮城 (2010) によりあらためて報告されている。さらに、2010年5月1日、4日に熊本県熊本市において本種の声が録音されている (三田 2010)。

(3) 同定と分布に関する知見

写真記録で本種であることが判定され、鳴き声については三田 (2010) による学術報告がある。

HIEROCOCCYX Müller ジュウイチ属

183. *Hierococcyx sparveroides* (Vigors 1832) オオジュウイチ

粟島 (AV: 2001年4月), 五島列島 (AV: 福江島, 2010年5月), 琉球諸島 (AV: 沖縄島, 2008年3月, 石垣島, 1989年10月, 与那国島, 2004年4月等)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

ヒマラヤから中国中南部, インド東部, 東南アジアに広く分布し、台湾では夏鳥である (del Hoyo et al. 1997; 方 2008)。

(2) 記録の経緯

1989年10月2日に沖縄県石垣島で落鳥個体が得られ、高原ら (2000) に報告されている。その後、与那国島で2004年4月27日と2005年5月17日 (宇山 2011), 2006年5月3日 (森河・森河 2008) の記録がある。2008年4月に沖縄県嘉手納町で保護された個体は沖縄野鳥研究会 (2010) に写真が掲載されている。また、2001年4月26～29日に新潟県粟島で観察されており (柳澤・柳澤 2008), 長崎県福江島でも2010年5月20日に観察、撮影されている (日本野鳥の会長崎県支部 2010; 出口敏也 私信)。

その後、トカラ列島平島で2012年5月3～5日に観察され、また、5月26日に鳴き声が録音されている (所崎 聡 私信)。

(3) 同定と分布に関する知見

標本が存在すること (高原ら 2000) や写真もあ

り、本種の記録が確認できる。台湾で夏鳥であることから、自然分布と考えられる。

Order APODIFORMES アマツバメ目

Family APODIDAE アマツバメ科

AERODRAMUS Oberholser ヒマラヤアナツバメ属

190. *Aerodramus brevirostris* (Horsfield 1840) ヒマラヤアナツバメ

190-U. *Aerodramus brevirostris* ssp. 亜種不明

天売島 (AV), 本州 (AV: 島根), 九州 (AV: 福岡), 宇治群島 (AV), トカラ列島 (AV: 平島), 琉球諸島 (AV: 沖縄島, 渡嘉敷島, 宮古島, 石垣島, 与那国島)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

インド北部のヒマラヤ山脈の南麓、インドシナ半島中部、中国中部から南西部で繁殖し、一部がタイ中南部、マレー半島へ渡る。4亜種に分けられている (del Hoyo et al. 1999) が、Clements (2007) では亜種 *rogersi* と亜種 *vulcanorum* をそれぞれ独立種として3種に分割している。

(2) 記録の経緯

1986年9月30日に沖縄県渡嘉敷島で観察されたほか (McWhirter et al. 1996), 与那国島で2003年5月7日以降ほぼ毎年、春に観察され、少数ではあるが秋にも観察されている (宇山 2011)。さらに、石垣島、宮古島、鹿児島県平島、福岡県相島、島根県浜田市、鹿児島県宇治群島、トカラ列島平島などで記録があるとされている (五百沢ら 2004; 五百沢・岡部 2004)。その後、2007年5月3日に北海道天売島で観察、撮影されたことが報道されており (2007年7月21日付け北海道新聞記事)、トカラ列島では関ら (2011) により2008年4月21日に平島の記録が報告されている。

(3) 同定と分布に関する知見

日本で記録されているアマツバメ類では小さく、ヒメアマツバメ *Apus nipalensis* 大だが、アナツバメ類としては大きい種である。体上面は黒褐色で、腰はヒメアマツバメのように白くはなく灰褐色で境界は不明瞭。下面は灰褐色であり、ヒメアマツバメと異なり喉は白くない。

同属のアナツバメ類との野外識別上の知見が少なく、同定は難しいと思われる。本種は渡りをすることから迷行する可能性が高いと考えられる。

また、行動に関して、コウモリのようにヒラヒ

ラと飛ぶことから、野外観察場面では他のアマツバメ類との判別は可能と考えられる。五百沢・岡部 (2004) によって総説的な報告があり、学術誌ではないが、一定の掲載条件を満たしていると判断した。観察と撮影のみであるため亜種の判定は難しい。

Order CHARADRIIFORMES チドリ目

Family CHARADRIIDAE チドリ科

PLUVIALIS Brisson ムナグロ属

196. *Pluvialis apricaria* (Linnaeus 1758) ヨーロッパムナグロ

196-U. *Pluvialis apricaria* ssp. 亜種不明

沖縄島 (AV: 2011年10月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

グリーンランド東部からアイスランド、スカンジナビア半島を経てロシア北部タイミール半島まで繁殖分布し、冬季はヨーロッパから地中海沿岸、カスピ海南部に移動することが知られている。2亜種に分けられているが (del Hoyo et al. 1996), 差がないとする報告もある (Byrkjedal & Thompson 1998)。

(2) 記録の経緯

2011年9月30日に沖縄県金武町で1羽が観察された (2011年10月5日付け、沖縄タイムス記事; 宮島ら 2012)。同個体は11月7日まで滞在したが、越冬には至らなかった。

(3) 同定と分布に関する知見

目録編集時点で、新聞記事のみでは目録への掲載要件には該当しないが、宮島ら (2012) による鳥学会誌への投稿、受理が確認されたことから、本記録に基づき、7版に掲載した。

また、本記録の後に、2012年2月11~19日に石川県河北潟でも本種1羽が観察、撮影されている (中村 2012; 中村ら 2013)。

198. *Pluvialis dominica* (Müller 1776) アメリカムナグロ

本州 (AV: 埼玉, 1987年4月, 茨城, 2002年5月), 沖縄島 (AV: 1986年9月)。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

なお、2002年の茨城県での記録（渡辺 2004）以降、本種の確実な記録は報告されていないと思われる。

CHARADRIUS Linnaeus チドリ属

201. *Charadrius semipalmatus* Bonaparte, 1825 ミズカキチドリ

本州（AV：愛知，2006年11月-2007年5月）。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

アラスカからカナダ北部，ブリティッシュコロンビアからノバスコシアにかけて繁殖し，冬期には北米南部から南米にかけての広い範囲の沿岸地域に移動する。西ヨーロッパにも迷行記録がある。亜種は認められていない（del Hoyo et al. 1996）。

(2) 記録の経緯

2006～07年の冬に愛西市立田の水田で1羽が観察，撮影されている（橋本宣弘 2007）。このほかに，1992年4～5月に千葉県谷津干潟での観察報告がある（桐原ら 2009）。掲載されている写真の日付では1994年となっているが誤植である（桐原政志 私信）。また，1995～96年に福岡県和白干潟の観察情報がある（岡部海都 私信）。ただし，愛西市以外の情報では側面からの写真はあるものの，それだけでは本種と判定できる条件を備えていないと判断し，目録への掲載対象から除外した。

なお，2009年9月12～16日に新潟県長岡市でも本種の可能性がある1羽が観察，撮影されており（小林 2010），2012年9月21日に千葉県九十九里浜で1羽が観察，撮影されている（加藤 匠 私信）。

(3) 同定と分布に関する知見

本種は，その分布域から我が国への迷行が十分予想される種であったが，ハジロコチドリ *C. hiaticula* との野外識別が難しいとされ，これまで確実に本種と判断できる記録は無かった。デジタル式カメラの普及により，野生状態で細部まで捉えた画像が得られるようになり，以下の識別点が確認されたものである。

- ・内趾側の蹼がある。非常に小さいが明確に存在がわかる。
- ・過眼線が口角の頂点部より上の位置で嘴に接する（個体差あり）。
- ・各羽衣を通じて，アイリングの黄色味が強い。橋本宣弘（2007）により詳細に学術報告されている。

Family SCOLOPACIDAE シギ科

LIMNODROMUS Wied オオハシシギ属

220. *Limnodromus griseus* (Gmelin 1789) アメリカオオハシシギ

220-1. *Limnodromus griseus hendersoni* Rowan, 1932 アメリカオオハシシギ

本州（AV：神奈川，1982年9月，静岡，1987年8月，2000年8月），四国（AV：徳島，1987年8月）。

【記録の出典について】

本種は3亜種に分けられているが（del Hoyo et al. 1996），6版において亜種の記述がされないまま掲載されていた。6版では亜種判定が要件であったことから，本種の亜種の確定が必要であった。7版では亜種不明でも掲載しているが，大杉（2002）によって亜種を特定した学術論文が発表されたことから，これを出典とし，過去の記録についても同様と判断した。

LIMOSA Brisson オグロシギ属

224. *Limosa haemastica* (Linnaeus 1758) アメリカオグロシギ

九州（AV：佐賀，2007年5月）

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず，今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

アラスカ西北部および南部からカナダのハドソン湾にかけて局地的に繁殖し，南アメリカ南東部で越冬する。亜種は認められていない（del Hoyo et al. 1996）。

(2) 記録の経緯

2007年5月5日に佐賀県佐賀市の大塚掘先の干潟で成鳥夏羽の個体1羽が観察，撮影され，5月13日まで確認された。

(3) 同定と分布に関する知見

宮崎・瀬井（2007）による報告があり，さらに宮崎（2008）によって学術報告された。これまで，国内では唯一の記録と思われる。

ACTITIS Illiger イソシギ属

245. *Actitis macularius* (Linnaeus 1766) アメリカイソシギ

北海道（AV：2003年5月）。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず，今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

カナダとアメリカ合衆国のほぼ全域に広く分布し、冬期はアメリカ合衆国南部から南アメリカに渡る。ヨーロッパからアフリカ、アジアに分布する同属のイソシギ *A. hypoleucos* と地理的に置き換わっているが、西ヨーロッパ（特にイギリスとアイルランド）に毎年のように迷行記録がある。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 1996)。

(3) 記録の経緯

2003年5月17~19日、北海道浦幌町において成鳥夏羽の個体1羽が観察、撮影された。

(3) 同定と分布に関する知見

新聞報道（2003年6月6日付け北海道新聞記事）の後、森岡・初野（2003）、野呂（2004）の報告があり、桐原ら（2009）にも掲載されている。さらに野呂ら（2011）により学術報告された。観察日については森岡・初野（2003）、野呂（2004）では5月19日まで、野呂ら（2011）では5月18日までとしている。これまで、国内では唯一の記録と思われる。

CALIDRIS Merrem オバシギ属

255. *Calidris fuscicollis* (Vieillot 1819) コシジロウズラシギ

本州（AV：新潟、2011年8月、神奈川、2006年8月）。

【記録の出典について】

本種は過去の日録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

北米大陸の極北部に繁殖分布し、アルゼンチン等南アメリカ南東部で越冬するとされ、亜種はない (del Hoyo et al. 1996)。

(2) 記録の経緯

2006年8月5~12日に神奈川県の大摩川河口で1羽が観察、撮影され、図鑑等に掲載されている（日本野鳥の会神奈川支部2007；桐原ら2009）。その後、2011年8月4~14日に新潟県新潟市の通称、日和山海岸で1羽が観察、撮影された（千葉2011）。

(3) 同定と分布に関する知見

オバシギ属の小型のシギ類で、腰の部分が白という特徴があるため、それが確認されれば、やや類似しているヒメウズラシギ *C. bairdii* 等との野外識別は難しくない。新潟県の記録は、千葉・高辻（2012）によって学術報告されている。

261. *Calidris alpina* (Linnaeus 1758) ハマシギ261-2. *Calidris alpina arctica* (Todd 1953) キタアラスカハマシギ

本州（PV, WV：千葉、神奈川、石川等）。本亜種の分布域は明確ではないため、検討が必要である。

【記録の出典について】

日本で記録される本種の亜種は、6版まではハマシギ *C. a. sakhalina* のみとされてきた。繁殖地での標識フラッグ装着による調査の結果、亜種 *C. a. arctica* の日本への渡来が確認された茂田（2001）。逆に、亜種ハマシギ *C. a. sakhalina* を含め、*C. a. arctica* 以外の亜種については未確認であり、日本に渡来するハマシギの亜種として確実なのは本亜種のみとされている（茂田2001）。

7版ではこのような経緯から亜種ハマシギ *C. a. sakhalina* を残したまま亜種 *C. a. arctica* を掲載し、「分布域の検討が必要」とした。

Family LARIDAE カモメ科

LARUS Linnaeus カモメ属

284. *Larus philadelphia* (Ord 1815) ボナパルトカモメ

北海道（AV：1987年5月）、本州（AV：茨城、1985年12月、神奈川、1985年12月-1986年2月、山口、2000年1月）。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら（2012）を参照されたい。

今井ら（1986）以外に学術報告されていない。

285. *Larus brunnicephalus* Jerdon, 1840 チャガシラカモメ

本州（AV：茨城、千葉、2002年5月）

【記録の出典について】

本種は過去の日録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

中央アジアで繁殖し、アラビア半島東部からインド、東南アジアの沿岸部で越冬する。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 1996)。

(2) 記録の経緯

2002年5月30日に千葉県銚子市と茨城県波崎町（現神栖市）で観察、撮影されている。

(3) 同定と分布に関する知見

大関・楠窪（2005）によって学術報告され、過

去の記録についても記述されている。

288. *Larus minutus* Pallas, 1776 ヒメカモメ

北海道 (AV: 1980年8月), 本州 (AV: 千葉, 2008年3月, 2010年4月, 2010年12月, 大阪, 1988年5月, 広島, 1984年8月)。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており, 過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

加藤ら (2009) により学術報告されている。

289. *Larus atricilla* Linnaeus, 1758 ワライカモメ

289-U. *Larus atricilla* ssp. 亜種不明

本州 (AV: 青森, 2010年5-7月, 茨城, 2000年6月, 2002年5月, 千葉, 2002年5月, 2002年11月, 東京, 2002年9月, 神奈川, 2002年9月, 愛知, 2000年9月, 2008年7月), 硫黄島 (AV: 2000年6月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

西インド諸島からトリニダード島で繁殖し, ブラジル北部 (大西洋側) で越冬する基亜種と, カリフォルニアからメキシコ, 中央アメリカで繁殖し, 南米ペルーまでの太平洋側で越冬する亜種 *L. a. megalopterus* の2亜種に分けられている (del Hoyo et al. 1996)。

(2) 記録の経緯

2000年6月17日に茨城県波崎町 (現神栖市) で第2回夏羽の個体が観察, 撮影され (岡村・福田 2001; 時田・渡辺 2001), 同月26日に東京都硫黄島でも第2回夏羽の個体が観察されている (時田・渡辺 2001; 渡辺 2001)。同年9月9日~11月5日に愛知県豊橋市で冬羽の個体が長期間観察 (稲田 2000; 山形 2001) され, 真木・大西 (2000) 等の写真図鑑に掲載されている。その後, 2002年5月下旬に茨城県波崎町から千葉県銚子市の港湾で成鳥夏羽が観察され (バーダー編集部 2003; 桑原ら 2006), 同年9月には冬羽個体が神奈川県多摩川河口から東京湾内で観察, 撮影された (湯川 2003; 桐原ら 2009; 日本野鳥の会神奈川支部 2007)。さらに2003年3月に銚子市 (千葉県史料研究財団 2005; 桑原ら 2006), 5月に波崎町 (森岡・バーダー編集部 2004) の観察記録があり, 2008年7月に愛知県一色町で成鳥夏羽個体が記録された (西

三河野鳥の会愛知県鳥類目録検討委員会 2008; 桐原ら 2009)。2010年5月~7月に青森県小川原湖で観察されている (吉岡 2011, 2012)。

(3) 同定と分布に関する知見

青森県の記録が, 吉岡 (2011, 2012) によって学術報告されている。国内の記録はいずれも1羽であり, 茨城県から東京湾にかけては同一個体が回遊していた可能性もあるが, 識別上の問題はないと判断される。亜種については太平洋側で記録されている *L. a. megalopterus* の可能性が考えられるが, 現時点では判定を留保した。

290. *Larus pipixcan* Wagler, 1831 アメリカズグロカモメ

本州 (AV: 秋田, 1988年11月, 2005年8-11月, 富山, 1991年9月, 神奈川, 1998年6月, 愛知, 京都, 1984年1月, 大阪, 2000年11月), 与那国島 (AV: 2006年7月)。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており, 過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

なお, 写真図鑑等への掲載はあるが, 佐々木ら (2007) による秋田県の以外に学術報告はされていないと考えられ, その他の記録についても今後の発表が望まれる。

294. *Larus canus* Linnaeus, 1758 カモメ

294-2. *Larus canus heinei* Homeyer, 1853 ニシシベリアカモメ

本州 (AV: 石川, 1989年4月)。

294-3. *Larus canus brachyrhynchus* Richardson, 1831 コカモメ

本州 (AV: 千葉, 1987年2月等)。

【記録の出典について】

本種は4亜種に分けられているが (del Hoyo et al. 1996), 6版まではカモメ *L. c. kamtschatschensis* のみが掲載されていた。

茂田 (1993) により, 日本に渡来するカモメの亜種について解説されており, その後の観察情報も寄せられたことから, 2亜種を認めることとした。

なお, カモメの亜種については学術報告がなされておらず, 今後の記録についての報告が期待される。

297. *Larus glaucooides* Meyer, 1822 アイスランドカモメ

297-1. *Larus glaucooides glaucooides* Meyer, 1822 アイスランドカモメ

本州 (AV: 千葉, 1994年2月).

297-2. *Larus glaucooides kumlieni* Brewster, 1883 クムリーンアイスランドカモメ

本州 (IV), 九州 (AV).

297-U. *Larus glaucooides* ssp. 亜種不明
北海道 (IV)

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており, 過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい.

また, 福嶋・福嶋 (2009) において, 我が国のアイスランドカモメの2亜種の記録について総説的に報告されており, 基亜種の記録 (森岡1997c; 桐原ら2000) およびクムリーンアイスランドカモメの記録 (初野2004; 福嶋・福嶋2009) を出典とした. なお, 北海道の記録 (Alström & Olsson 1985) については, 亜種不明とされている.

298. *Larus thayeri* Brooks, 1915 カナダカモメ
北海道 (IV), 本州 (IV).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

カナダ北部の北極圏で繁殖し, 冬期はブリティッシュコロンビアからカリフォルニアまでのアメリカ西海岸に移動する. 亜種は認められていないが, アイスランドカモメの2亜種との関係や, セグロカモメ類の分類については諸説がある (del Hoyo et al. 1996).

(2) 記録の経緯

1986年11月10日に氏原巨雄・氏原道昭両氏によって神奈川県川崎市多摩川河口で若鳥1羽が観察され (日本野鳥の会野鳥記録委員会1987a), 同氏らによって1987年3月8日に千葉県銚子市銚子漁港で1羽が観察されている (日本野鳥の会野鳥記録委員会1987b). 同記録は日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1987c) には掲載されず, 同委員会の「公式記録」とはならなかった. その後, 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1988b) において, 本種が1988年2月11日千葉県銚子市で撮影された写真付きで掲載され, 「セグロカモメより少し小さい. アイスランドカモメの一亜種とする説もある」と

されている. 銚子市で連年にわたり継続的に観察され, 写真図鑑に掲載されている (桐原ら2000) ほか, 青森県 (日本野鳥の会青森県支部/弘前支部2001), 島根県や北海道からも記録されている (先崎2008)

(3) 同定と分布に関する知見

先崎 (2008) により学術報告されており, 過去の記録についてもとりまとめられている.

299. *Larus argentatus* Pontoppidan, 1763 セグロカモメ

299-2. *Larus argentatus smithsonianus* Coues, 1862
アメリカセグロカモメ

本州 (AV: 青森, 茨城, 千葉, 神奈川).

【記録の出典について】

種セグロカモメについては, 亜種セグロカモメ *L. a. vegae* を独立種とする考え方 (Olsen & Larsson 2003) もあり, ニシセグロカモメ *L. fuscus* やキアシセグロカモメ *L. cachinnans* との分類上の整理が必要となっている. 最近では, 地域繁殖個体群を単位とする独立種として扱う傾向があるが (例えば van Dijk et al. 2011 など), ここでは del Hoyo et al. (1996) および Dickinson (2003) に準じ, *L. argentatus* を4亜種 (基亜種の外, *smithsonianus*, *argenteus*, *vegae*), *L. fuscus* を4亜種 (基亜種の外, *graellsii*, *intermedius*, *heuglini*), *L. cachinnans* を5亜種 (基亜種の外, *atlantis*, *michahellis*, *barabensis*, *mongolicus*) に分けることとした.

本種については, 6版までは亜種セグロカモメのみが掲載されているが, 本亜種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した.

(1) 亜種の分布の概要

北米大陸中北部に広く繁殖分布し, 北米大陸中南部で越冬する (del Hoyo et al. 1996).

(2) 記録の経緯

1989年2月16日に神奈川県多摩川河口で観察されており, 氏原・氏原 (1998) に報告されているほか, 千葉県銚子市 (桐原ら2009), 青森県百石町 (日本野鳥の会青森県支部/弘前支部2001) などの記録が見られる.

(3) 同定と分布に関する知見

亜種セグロカモメに比べて, 体上面がより薄い淡青灰色で, 成鳥はシロカモメ *L. hyperboreus* の体上面の色に近い. 桐原ら (2009) にはセグロカモメとは別種として掲載されているが, 識別点は詳述されている. 現時点では観察による報告のみと考えられるが, 今後, DNAレベルの研究が進み

学術報告されることを期待する。

300. *Larus cachinnans* Pallas, 1811 キアシセグロカモメ

300-1. *Larus cachinnans mongolicus* Sushkin, 1925
キアシセグロカモメ

本州 (IV), 九州 (IV).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

ヨーロッパ中部の大西洋岸から地中海沿岸、中央アジアに分布しアフリカ北部からアラビア半島沿岸、東南アジアで越冬する。亜種 *mongolicus* はバイカル湖周辺からモンゴルにかけて繁殖分布し、主に南アジアで越冬する (del Hoyo et al. 1996)。

(2) 記録の経緯

Brazil (1983) により 1983 年 3 月 21 日に長崎県諫早市の有明海で観察された脚の黄色いセグロカモメ類について *mongolicus* の可能性を示唆する報告がされているが、6 版には反映されていない。2002 年 12 月 19 日に福岡県博多漁港および大濠公園で、本亜種とされる観察事例が報告されている (籠島 2004)。また、茨城県神栖市 (2006 年 4 月 9 日) や千葉県銚子市 (2007 年 3 月 21 日) の記録がある (桐原ら 2009)。

(3) 同定と分布に関する知見

本亜種の脚は必ずしも常に黄色くはなく、野外識別にあたっては氏原 (2007) の解説にあるように総合的な判断が必要となる。

302. *Larus fuscus* Linnaeus, 1758 ニシセグロカモメ

302-1. *Larus fuscus heuglini* Bree, 1876 ニシセグロカモメ

北海道 (IV), 本州 (IV), 九州 (IV)。

302-U. *Larus fuscus* ssp. 亜種不明

本州 (AV: 神奈川), 九州 (AV)。

【記録の出典について】

本種は 6 版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

7 版では上記のとおり、本種を 4 亜種 (基亜種の他, *graellsii*, *intermedius*, *heuglini*) とすることとした。また、タイミルセグロカモメ *taimyrensis* に対する判断は留保した。福嶋・福嶋 (2009) において、ホイグリンカモメ *L. heuglini* とニシセグ

ロカモメ *L. fuscus* の記録が報告されており、ニシセグロカモメについては亜種の判定をしていない。

なお、富田ら (2010) は北海道天売島で採集された脚の黄色いカモメ属個体について、種の判定は困難としている。日本で観察されるこれらの個体の繁殖地は不明であることから、今後、DNA レベルの研究と併せて、繁殖地の確認を通じて日本に渡来するセグロカモメ類相の解明が期待される。

STERNA Linnaeus アジサシ属

306. *Sterna bengalensis* Lesson, 1831 ベンガルアジサシ

306-U. *Sterna bengalensis* ssp. 亜種不明

本州 (AV: 静岡, 1998 年 7 月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

3 亜種が知られており、リビア沿岸で繁殖し北アフリカ西部の大西洋沿岸で越冬する亜種の他、紅海、アフリカ大陸東岸のインド洋からオーストラリア北部まで広く分布する (del Hoyo et al. 1996)。

(2) 記録の経緯

1998 年 7 月 25 日に静岡県蒲原町の富士川河口で 1 羽が観察、撮影されている。バーダー編集部 (1999b) に発表され、桐原ら (2000) にも同様の写真が掲載されているが、写真の向きが逆になっている。同記録は、静岡の鳥編集委員会 (2010) にも掲載されている。

(3) 同定と分布に関する知見

体の大きさや嘴の色等、本種の特徴を捉えた写真が発表されている。森岡 (1999c) による識別の解説があるが、亜種の判定はできないとしている。これまで、国内では唯一の記録と思われる。

315. *Sterna paradisaea* Pontoppidan, 1763 キョクアジサシ

本州 (AV: 茨城, 1996 年 7 月, 千葉, 静岡, 2003 年 6 月等)。

【記録の出典について】

本種は 5 版において掲載が見送られ、さらに 6 版において検討種とされた。過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。

佐々木ら (2004) による学術報告があり、別途標本も保管されている。太平洋沿岸の各地からの記録が期待される。

CHLIDONIAS Rafinesque クロハラアジサシ属

318. *Chlidonias niger* (Linnaeus 1758) ハシグロ
クロハラアジサシ

318-2. *Chlidonias niger surinamensis* (Gmelin 1789)
アメリカハシグロクロハラアジサシ

本州 (AV: 茨城, 2001年6月, 千葉, 1999年
7月, 東京, 2000年7月).

【記録の出典について】

本亜種は過去の目録で検討されておらず, 今回
初めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

ハシグロクロハラアジサシは2亜種に分けられ
ているが, 本亜種は北米中部に繁殖分布し, 非繁
殖期は中米から南米北部の沿岸に渡る (del Hoyo
et al. 1996).

(2) 記録の経緯

2000年7月9日に東京湾内で観察された事例が
報告されており, 過去の記録についても触れられ
ている (初野 2003).

(3) 同定と分布に関する知見

初野 (2003) の報告は学術誌への掲載には該当
しないが, 識別可能な写真と英文要約も付されて
おり, 観察記録としての要件を満たしていると判
断した.

Family ALCIDAE ウミスズメ科

ALLE Link ヒメウミスズメ属

323. *Alle alle* (Linnaeus 1758) ヒメウミスズメ

323-U. *Alle alle* ssp. 亜種不明

北海道 (AV: 1994年3月), 本州 (AV: 静岡,
1996年5月), 九州 (AV: 大分, 2002年6月), 沖
縄島 (AV: 1992年1月).

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており, 過去
の記録とその検討については池長ら (2012) を参
照されたい.

本種にはグリーンランド, アイスランド, ノヴァ
ヤゼムリヤ, スヴァールバル諸島で繁殖する基亜
種と, ゼムリヤフランツァヨシファで繁殖する亜
種 *A. a. polaris* に分けられており, 後者はやや大き
いとされている (del Hoyo et al. 1996; Stempniewicz
et al. 1996). 国内の記録は観察記録のみで測定値
はなく, 中村ら (2003) でも亜種については述べ
られていない.

ALCA Linnaeus オオハシウミガラス属

326. *Alca torda* Linnaeus, 1758 オオハシウミガ
ラス

326-1. *Alca torda islandica* Brehm, 1831 オオハシ
ウミガラス

日本海 (AV).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初
めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

北極海の大西洋側と北大西洋に広く分布する.
繁殖地は, 北アメリカ側はメイン州以北, ヨー
ロッパ側はロシア西部からフランス北部までとさ
れる. 冬は外洋で生活し, 北アメリカのニューイ
ングランド沿岸や地中海西部など温暖な地方に姿
を現すこともある. 北米側とヨーロッパ側で2亜
種に分けられている (del Hoyo et al. 1996).

(2) 記録の経緯

Keijl (1996) により, シーボルトが1823~1827
年に日本で採集し, ライデン博物館に送った本種
の標本が再確認され, 亜種 *A. t. islandica* と同定さ
れたことが学術報告された. 同報告では, 同記録
が, その後ウトウ *Cerorhinca monocerata* の冬羽と
推定されたまま顧みられなかったこと, ライデン
博物館における収蔵標本調査によってあらためて
日本の記録が確認されたことが示されている.

(3) 同定と分布に関する知見

標本と過去の文献 (Temminck & Schlegel 1842)
により確認される.

Order ACCIPITRIFORMES タカ目

Family ACCIPITRIDAE タカ科

ELANUS Savigny カタグロトビ属

341. *Elanus caeruleus* (Desfontaines 1789) カタ
グロトビ

341-1. *Elanus caeruleus hypoleucus* Gould, 1859 カ
タグロトビ

琉球諸島 (AV: 沖縄島, 2007年7月, 石垣島,
1995年1月, 西表島, 2002年9月, 与那国島,
2001年4月).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初
めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

アフリカから東南アジアにかけて広域に分布し,
4亜種に分けられている. 東南アジアでは *E. c.*
vociferous がパキスタンからマレー半島にかけて,

E. c. hypoleucus がスマトラ, ジャワ, ボルネオからフィリピンにかけて分布している (del Hoyo et al. 1994). 中国では, 雲南, 広西, 浙江, 河北各省に分布しており, 近年, 海南, 広東, 福建各省に分布が広がっている. 留鳥とされているが広域に移動することがあり, 台湾からも記録されている (方 2008).

(2) 記録の経緯

1995年1月6日に石垣島において小山慎司氏によって1羽が観察, 撮影された (バーダー編集部 1995; 五百沢ら 2000). その後, 2001年4月17日に与那国 (佐藤 2009; 佐藤 進 私信), 2002年9月4日に西表島 (木村・鈴木 2003) で観察されている. さらに, 2007年7月17日~20日沖縄島南部の糸満市で1羽が観察され, その後同一と思われる個体が7月28日~10月21日まで同島中部の読谷村で再度確認された (橋本幸三 2007; 沖縄野鳥研究会 2010; 高原建二 私信).

(3) 同定と分布に関する知見

1995年1月に石垣島に出現した個体は, 次列風切下面まで黒っぽいので, 亜種 *hypoleucus* と思われる. 若鳥の次列風切下面が黒っぽい, 本個体は雨覆の羽縁が白くなく, 胸に褐色のまだらもないので成鳥と考えられ, 若鳥ゆえに次列風切下面が黒いということではない. 2007年の沖縄島で観察された個体も次列風切下面はかなり暗い灰色であり, 石垣個体と同様と考えられるが, 風切に褐色みが強く, 内側大雨覆の先に白いスポットが残っているので, おそらく第1回夏羽と考えられる.

本種についてはこれらの記録以外に, 1973年9月埼玉県戸田市での観察 (海辺 1974) や 1997年6月23, 24日に滋賀県多賀町, 1999年2月24日, 9月30日に滋賀県木之本町の記録 (中島ら 2006) があり, いずれも飼育個体の逸出とされているが, 沖縄から八重山の個体は自然分布と考えられる.

写真図鑑等には掲載されているが, 学術報告されていない.

HALIAEETUS Savigny オジロワシ属

344. *Haliaeetus leucocephalus* (Linnaeus 1766) ハクトウワシ

344-1. *Haliaeetus leucocephalus washingtoniensis* (Audubon 1827) ハクトウワシ

南千島 (AV: 国後島, 2001年7月).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

極北部を除く北米大陸に広く分布し, アリューシャン列島にも分布している (del Hoyo et al. 1994).

(2) 記録の経緯

2001年7月25日に国後島北東部のサラトフカ川河口部で1羽が観察されたことが Skopets & Dorogoy (2002) によって報告されている.

(3) 同定と分布に関する知見

藤巻裕蔵氏による邦訳の際に写真が添付され, 本種であることが確認できる.

他に報告されておらず, 国内で唯一の記録と考えられる.

CIRCUS Lacépède チュウヒ属

348. *Circus aeruginosus* (Linnaeus 1758) ヨーロッパチュウヒ

348-1. *Circus aeruginosus aeruginosus* (Linnaeus 1758) ヨーロッパチュウヒ

本州 (AV: 山口, 1989年12月).

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており, 過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい.

森岡ら (1995) の他に報告されておらず, 本個体がこれまで唯一の記録と考えられる.

351. *Circus macrourus* (Gmelin 1770) ウスハイイロチュウヒ

本州 (AV: 千葉, 2008年12月, 静岡, 2008年10月, 京都, 2010年10月).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

東ヨーロッパから中央アジアにかけて繁殖分布し, アフリカ, インド, 中国に南部に渡る. 亜種は認められていない (del Hoyo et al. 1994).

(2) 記録の経緯

1984年1月3日に北海道落石岬で観察, 撮影された1羽が本種として日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1988) に掲載されたが, 翼式の違い等により否定されている (小山 2009). 2008年10月19日に静岡県袋井市で1羽が観察, 撮影され, 同年12月6日から2009年2月下旬にかけて, 千葉県柏市と我孫子市の手賀沼付近で観察, 撮影され, 一時的に印旛沼周辺でも観察, 撮影された (小山

2009). その後, 2010年10月8~10日に京都府巨椋干拓で1羽が観察, 撮影されている(西川2010; 2010年10月19日付け洛南タイムズ記事).

(3) 同定と分布に関する知見

小山(2009)による報告の他, 初野(2009)によって識別の解説がされている. どの記録も学術報告されていないが, 公表されている画像と説明により本種と判断する.

ACCIPITER Brisson ハイタカ属

356. *Accipiter gentilis* (Linnaeus 1758) オオタカ

356-1. *Accipiter gentilis albidus* (Menzies 1882)

シロオオタカ

北海道(AV:サロベツ原野, 1979年11月), 本州(AV:青森, 山形).

【記録の出典について】

本亜種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

シベリア北東部(レナ川からカムチャツカ)にかけて繁殖分布し, 冬期は餌の状況により南に移動する(del Hoyo et al. 1994; Dickinson 2003).

(2) 記録の経緯

1979年11月24日~12月2日に北海道豊富町のサロベツ原野で1羽が観察, 撮影され, 報告されているが(富士元1980), 6版には反映されていない.

その他, 1981年2月10日, 北海道大樹町(日本野鳥の会編集部1981), 1994年4月20日, 青森県竜飛岬(森岡ら1995), 山形県(山形新聞社2011)の記録がある.

(3) 同定と分布に関する知見

北海道の記録については写真があり, オオタカの白化ではないと判断できる. 一方, 外国産のシロオオタカが飼育の対象となっていることもあり, それらの逸出とされる記録が神奈川県(2003年4月頃), 岐阜県岐阜市(2003年11月2日)であるとの情報もある(中島ら2006).

Order STRIGIFORMES フクロウ目

Family TYTONIDAE メンフクロウ科

TYTO Billberg メンフクロウ属

365. *Tyto longimembris* (Jerdon 1839) ヒガシメン

フクロウ

365-U. *Tyto longimembris* ssp. 亜種不明

西表島(AV:1975年5月).

【記録の出典について】

本種は6版においてミナミメンフクロウとして検討種とされていたものであり, 過去の記録とその検討については池長ら(2012)を参照されたい.

福地(1976)の報告がこれまで唯一の記録と考えられる.

Order CORACIIFORMES ブッポウソウ目

Family ALCEDINIDAE カワセミ科

HALCYON Swainson アカショウビン属

379. *Halcyon smyrnensis* (Linnaeus 1758) アオ

ショウビン

379-U. *Halcyon smyrnensis* ssp. 亜種不明

八重山諸島(AV:石垣島, 1994年4月, 西表島, 1998年4月).

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており, 過去の記録とその検討については池長ら(2012)を参照されたい. 写真図鑑に掲載された写真から, 種の識別に問題ないと思われるが, 観察時の行動等を含め学術報告が望まれる.

CEYX Lacépède ミツユビカワセミ属

384. *Ceyx erithaca* (Linnaeus 1758) ミツユビカワセミ

384-1. *Ceyx erithaca erithaca* (Linnaeus 1758) ミツユビカワセミ

沖縄島(AV:2006年6月).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

本種の分布地は, インド南西および北東部, ブータン, バングラデシュ, スリランカ, アンダマン, 中国南部および南西部, スマトラ, ジャワ, ボルネオ, フィリピンなど東南アジアの広範囲にわたっており, インドシナ半島で繁殖する個体群がマレー半島南部に渡る(del Hoyo et al. 2001).

本種の亜種区分については, 5亜種(Clements 2007)または3亜種(del Hoyo et al. 2001; Dickinson 2003)とされるが, いずれも基亜種の分布域はインドから中国南西部, インドシナ半島(マレーシア), スマトラなどの地域である.

(2) 記録の経緯

2006年6月8日に, 沖縄県八重瀬町の沖縄県立島尻養護学校で1羽が発見, 保護された.

(3) 同定と分布に関する知見

沖縄で保護された個体はその色彩・形態的な特徴から、中国南西部にも広域的に生息する基亜種と判断されている。高原ら (2009) による学術報告があり、これまで唯一の記録と考えられる。

Order PICIFORMES キツツキ目

Family PICIDAE キツツキ科

DENDROCOPOS Koch アカゲラ属

389. *Dendrocopos hyperythrus* (Vigors 1831) チャバラアカゲラ

389-1. *Dendrocopos hyperythrus subrufinus* (Cabanis & Heine 1863) チャバラアカゲラ

北海道 (AV: 渡島大島, 1993年5月), 本州 (AV: 新潟, 2007年5月), 舩倉島 (AV: 2005年5月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

本種は中型キツツキ類で4亜種に分けられており、ヒマラヤ地方から中国西南部、インドシナにかけて分布する3亜種は、それぞれの分布域において留鳥とされている (del Hoyo et al. 2002)。一方、これらの分布域から離れた中国東北部からロシア沿海地方で繁殖している亜種 *D. h. subrufinus* は、非繁殖期は中国南部に渡るとされている (Polivanov 1981; del Hoyo et al. 2002)。

(2) 記録の経緯

1993年5月24日に小城春雄氏らにより北海道渡島大島で雌1羽が観察され、2005年5月15日～17日に石川県舩倉島で雄1羽が観察、撮影された (小堀ら 2007)。また、2007年5月2日に新潟市内で雌の死体が拾得され、岐阜県博物館に剥製が保管されている (風間・土田 2007)。

(3) 同定と分布に関する知見

小堀ら (2007) および風間・土田 (2007) によって学術報告されており、標本もある。その後、2012年5月8～16日に石川県舩倉島で雌1羽が観察されている (平野 2013; 伊丹英生 私信)。

Order FALCONIFORMES ハヤブサ目

Family FALCONIDAE ハヤブサ科

FALCO Linnaeus ハヤブサ属

405. *Falco cherrug* Gray, 1834 ワキスジハヤブサ

405-U. *Falco cherrug* ssp. 亜種不明

宮古島 (AV: 2008年1月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

中央ヨーロッパからロシア南西部、モンゴル、中国西北部に繁殖分布し、冬期はアフリカ北東部から中央アジア、中国中東部まで移動する。分布域の東西で2亜種に分けられている (del Hoyo et al. 1994)。

(2) 記録の経緯

2008年1月3日に沖縄県宮古島で観察、撮影された。

(3) 同定と分布に関する知見

沖縄野鳥研究会 (2010) および砂川 (2011) に同じ写真が掲載されているのみであるが、電柱とのサイズ比較で本個体が類似するハヤブサ類よりも大きいことが明らかであり、本種と判定できる。また、飼育個体からの逸出とされる事例について1996～1997年に岐阜県下で3例の情報がある (中島ら 2006)。宮古島の記録については地域の飼育状況を含め、人為分布とする根拠もないことから自然分布の迷行個体と判断した。これまで唯一の記録と考えられ、観察の際の行動を含めた学術報告が望まれる。

407. *Falco peregrinus* Tunstall, 1771 ハヤブサ

407-4. *Falco peregrinus anatum* Bonaparte, 1838 アメリカハヤブサ

本州 (AV: 静岡, 1992年2月)。

【記録の出典について】

本亜種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

ハヤブサ *F. peregrinus* の1亜種としてアリューシャン列島とアラスカ沿岸、北アメリカ北部からメキシコ北部まで繁殖分布し、冬期にはアルゼンチン、チリまで移動する (del Hoyo et al. 1994)。

(2) 記録の経緯

1993年1月17日、2月7日に静岡県沼津市で個体識別カラーリングの付いた1羽が観察、撮影された。この個体は1991年6月1日にアメリカ合衆国アリゾナ州北部グランドキャニオンのコロラド川上流グレンキャニオン (36°55'N, 111°33'W) で巣内雛に対して標識されたことが判明した (静岡の鳥編集委員会 1998)。

(3) 同定と分布に関する知見

標識により当該個体の出生記録が明らかであり、

亜種の判定ができる。また、森岡ら (1995) に写真が掲載され、亜種の特徴が記述されている。これまで唯一の確実な記録と考えられる。

Order PASSERIFORMES スズメ目

Family DICRURIDAE オウチュウ科

DICRURUS Vieillot オウチュウ属

414. *Dicrurus macrocercus* Vieillot, 1817 オウチュウ

414-U. *Dicrurus macrocercus* ssp. 亜種不明

利尻島 (AV:2000年5月), 本州 (AV:青森, 群馬, 埼玉, 千葉, 静岡, 愛知, 岐阜, 石川, 三重, 島根), 佐渡 (AV:2009年5月), 粟島 (AV), 舩倉島 (IV), 見島 (IV), 九州 (IV:長崎, 大分, 熊本, 宮崎), 対馬 (IV), 男女群島 (IV), トカラ列島 (IV), 奄美諸島 (IV), 琉球諸島 (IV)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

イラン南西部からアフガニスタン, インド, スリランカ, 中国中南部, インドシナ, ジャワ, バリ, 台湾, に分布し, 中国中部のものは東南アジアに移動する。7亜種に分けられている (del Hoyo et al. 2009)。

(2) 記録の経緯

1976年4月13日に西表島で本種とされる1羽が観察された (福地 1976)。同年5月3日に長崎県対馬, 1977年5月1日に鹿児島県荒崎地区での記録があるが, 対馬の記録についてはカンムリオウチュウ *D. hottentottus* の可能性も否定できない (ヒメオウチュウ *D. aeneus* には見えない) として「確認できない記録」とされている (森岡ら 1978)。その後, 本種は1980年代以降各地から記録されるようになったが, 学術報告がなく, 6版には掲載されていない。写真によって確認される初期の記録は, 1986年5月1日に長崎県対馬, 1987年5月26日に石川県舩倉島 (日本野鳥の会野鳥記録委員会 1987c), 1988年5月5日に長崎県諫早市, 1989年4月26日に沖縄県西表島 (日本野鳥の会野鳥記録委員会 1989), 1991年5月12日に鹿児島県笠沙町 (現南さつま市) (日本野鳥の会野鳥記録委員会 1992) 等がある。その後, 写真図鑑にも掲載され (五百沢ら 2000; 真木・大西 2000 など), 2004年5月6日には鹿児島県トカラ列島中之島で標識放鳥されている (山階鳥類研究

所 2005)。北海道利尻島 (田牧 2001) や青森県 (宮・高橋 2012) 等, 地域での報告もされている。また, 与那国島では最大23羽の観察記録がある (宇山 2011)。

(3) 同定と分布に関する知見

森岡ら (1978) 以降の記録については個々には検討されていないが, 撮影された画像から, 本種であることが十分識別できる。また宮・高橋 (2012) では亜種の検討もされている。7版では, 各都道府県と島嶼等の地域からの協力者からの報告に基づき, 本種の記録がほぼ全国的に広がっていると判断した。

415. *Dicrurus leucophaeus* Vieillot, 1817 ハイイロオウチュウ

415-1. *Dicrurus leucophaeus leucogenis* (Walden 1870) ハイイロオウチュウ

本州 (AV:静岡, 2002年11月, 愛知, 2010年10月, 大阪, 2011年10月), 四国 (AV:愛媛, 2009年10月), 九州 (AV:長崎, 2010年5月, 熊本, 1997年10月-1998年1月, 宮崎, 2005年10月), 対馬 (AV:2011年5月), トカラ列島 (IV:平島, 2006年5月, 2011年5月), 奄美大島 (AV:2002年11月), 琉球諸島 (IV:沖縄島, 粟国島, 座間味島, 伊良部島, 石垣島, 西表島, 与那国島)。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており, 過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。7版では, 各都道府県と島嶼等の地域からの協力者からの報告に基づき, 本種の記録が本州西南部以南に広がっていると判断した。

416. *Dicrurus hottentottus* (Linnaeus 1766) カンムリオウチュウ

416-1. *Dicrurus hottentottus brevirostris* (Cabanis 1851) カンムリオウチュウ

舩倉島 (AV:2008年5月, 2011年5月), トカラ列島 (AV:2006年5月), 琉球諸島 (AV:沖縄島, 2004年10月, 久米島, 2000年5月, 池間島, 2006年5月, 与那国島, 2000年4月, 2001年4月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

インド西部, インド東部とヒマラヤ山麓から中

国中部, 東南アジアに分布し, 北の個体群は夏鳥となっている (del Hoyo et al. 2009). 島嶼のものは亜種分化しているとされ, 8 亜種 (Clements 2007), 14 亜種 (del Hoyo et al. 2009), 17 亜種 (Dickinson 2003) 等の説がある. 亜種 *D. h. brevisrostris* は中国中部に繁殖分布し, 最も近隣に生息する亜種である (del Hoyo et al. 2009 ほか)

(2) 記録の経緯

2000年4月29日~5月1日に, 沖縄県与那国島で1羽が観察, 撮影され, 2001年, 2002年の記録を含め, 大西・真木 (2004b) により学術報告されている. また2000年5月3日に沖縄県久米島の奥武島で鳥類標識調査によって捕獲され (山階鳥類研究所 2002), 分布範囲等から亜種が判定された (髙原ら 2001). その後, 2004年10月22, 23日に沖縄県豊見城市で1羽 (髙原ら 2008; 沖縄野鳥研究会 2010), 2006年5月6, 7日にトカラ列島平島で1羽 (関ら 2011), 2006年5月に沖縄県池間島で1羽 (砂川 2011), 2008年5月2日 (平野 2009) と2011年5月19~22日 (平野 2012; 木村 壱典 私信) に石川県舩倉島で観察, 撮影されている.

(3) 同定と分布に関する知見

与那国島では2004年4~5月にかけて複数 (最大5羽) が記録され, 2004年と2005年には10月にも観察されているが (宇山 2011), 同地の記録としては最初の2例にとどめた. すでに大西・真木 (2004b) により学術報告がされているが, 今後記録が増える可能性がある.

Family MONARCHIDAE カササギヒタキ科

HYPOTHYMIS Boie クロエリヒタキ属

417. *Hypothymis azurea* (Boddaert 1783) クロエリヒタキ

417-U. *Hypothymis azurea* ssp. 亜種不明

与那国島 (AV: 2008年4月).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

インドから東南アジアにかけて分布し, 基本的に留鳥として多くの地域で亜種に分けられている (del Hoyo et al. 2006). 日本の近隣では台湾に亜種 *H. a. oberholseri* が分布しており, インドから中国南部に分布する亜種 *H. a. styani* は冬期に移動するとされる (今井ら 2011).

(2) 記録の経緯

2008年4月13~17日に, 沖縄県与那国島で1羽が観察, 撮影されている.

(3) 同定と分布に関する知見

今井ら (2011) により学術報告され, 性や亜種については判定できないとしている. これまで唯一の記録と考えられる.

Family LANIIDAE モズ科

LANIUS Linnaeus モズ属

422. *Lanius collurio* Linnaeus, 1758 セアカモズ

422-1. *Lanius collurio pallidifrons* Johansen, 1952
セアカモズ

舩倉島 (AV), 四国 (AV: 香川), 九州 (AV: 宮崎, 2002年2月), 与那国島 (AV).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

西ヨーロッパからロシア中部まで繁殖分布し, 冬期はアフリカ中南部に渡る. 3亜種に分けられており *L. c. pallidifrons* は最も東で繁殖する亜種である (del Hoyo et al. 2008).

(2) 記録の経緯

2007年1月2日~4月27日に香川県まんのう町で雄1羽が観察, 撮影され, 学術報告されている (古市ら 2010). また, 日本産鳥類記録委員会 (2007) で過去の記録がとりまとめられている. その他, 2002年2月26日に宮崎県高鍋町で観察, 撮影された個体がある (宮崎県環境森林部自然環境課・第59回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」記念誌編集検討委員会 2005; 五百澤日丸, 所崎 聡 私信)

(3) 同定と分布に関する知見

古市ら (2010) により, 亜種についても詳細な検討がされており, 他の記録についてもこれに準じた. ただし, Dickinson (2003) は本亜種を認めず2亜種とし, Clements (2007) では単型種としている. 舩倉島の記録について森岡 (1998a) による検討がされているが, 類似種や交雑も知られていることから, 今後の分類上の検討の必要性も残されている.

423. *Lanius isabellinus* Hemprich & Ehrenberg, 1833
モウコアカモズ

423-U. *Lanius isabellinus* ssp. 亜種不明

舩倉島 (AV: 2008年5月), 九州 (AV: 宮崎,

2005年1月), 沖縄島 (AV: 2003年2-4月).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

中東からモンゴルにかけて繁殖分布し, アフリカ中部からアラビア半島南部, インド北西部で越冬する. 4亜種に分けられている (Dickinson 2003; Clements 2007; del Hoyo et al. 2008).

(2) 記録の経緯

これまで和名オリイモズとして, 沖縄県国頭村で2002年11月と2004年11月に記録があるとされるが, 写真は掲載されていない (沖縄野鳥研究会 2010). 五百沢ら (2004) には2003年2月28日と同年3月2日に撮影された沖縄県国頭村での写真が掲載されており, 上記前者が越冬したと考えられる. またバーダー編集部 (2005) には2004年12月5日に沖縄県国頭村で撮影された個体の写真が掲載されており, 上記後者の記録に合致する. その後, バーダー編集部 (2006) に2005年1月9日に宮崎県新富町で撮影された1羽が掲載されている. 日本産鳥類記録委員会 (2007) でも過去の記録がとりまとめられているが, 「写真の掲載, 撮影者」に一部誤記がみられる. さらに平野 (2009) は2008年5月21~27日の石川県舩倉島での記録を報告している.

(3) 同定と分布に関する知見

本種に関する学術報告はされていないが, 写真記録が残されていることから, 総合的に判断し, 本種の記録とした. 亜種についても *L. i. speculigerus* とする見解 (例えば五百沢ら 2004) が見られるが, 正式な報告がないことから亜種の判定は留保した.

Family CORVIDAE カラス科

CORVUS Linnaeus カラス属

432. *Corvus monedula* Linnaeus, 1758 ニシコクマルガラス

432-U. *Corvus monedula* ssp. 亜種不明

北海道 (AV: 霧多布, 1996年12月), 天売島 (AV: 1986年4月), 九州 (AV: 熊本, 2010年11月).

【記録の出典について】

5版まではコクマルガラス *C. dauuricus* が本種と同種の亜種 *C. m. dauuricus* として扱われていたが, 6版ではそれぞれが種レベルで分割されている. 本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて

掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

ヨーロッパから中央アジアまでと北アフリカの一部に分布し, 西シベリアなど北に分布する個体群は冬期には南に移動する. 4亜種に分けられている (Dickinson 2003; Clements 2007; del Hoyo et al. 2009).

(2) 記録の経緯

1986年4月22日に北海道天売島で1羽が観察され, 中村・寺沢 (1986) により学術報告されているが, 6版では触れられていない. また1996~1997年に北海道浜中町で1羽が観察, 撮影され, 図鑑等に掲載されている (バーダー編集部 1999a; 五百沢ら 2000). さらに2010年11月11, 12日に熊本県玉名市横島町で観察, 撮影されていることが目録編集委員会に報告され (坂梨仁彦 私信), 委員会としてこれを認めた. 同記録はその後, 日本野鳥の会熊本県支部 (熊本野鳥の会) (2011a, b) に報告がある.

(3) 同定と分布に関する知見

中村・寺沢 (1986) の報告時点 (5版) では本種はコクマルガラスの亜種とされていたが, 同報告では別種として扱い, ヨーロッパコクマルガラスと称して, 虹彩の色に着目して区分している. 日本で記録される亜種は, 最も東に分布する亜種 *C. m. soemmerringii* とされることがあるが (真木・大西 2000), 7版では特定しない.

なお, 熊本県で記録された個体については, 白石ら (2011) によってコクマルガラスとの交雑の可能性も示唆されており, 検討の余地が残されている.

Family PARIDAE シジュウカラ科

PERIPARUS Selys-Longchamps ヒガラ属

444. *Periparus venustus* (Swinhoe, 1870) キバラガラ

舩倉島 (AV: 2010年4月), 九州 (AV: 福岡, 2009年12月).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

中国中部, 東部に分布し, 冬期は中国東南部に渡る. 亜種は認められていない (del Hoyo et al. 2007).

(2) 記録の経緯

1985年2月13日に東京都板橋区で1羽の観察,

撮影記録があり、「おそらくカゴヌケ」とされている（日本野鳥の会野鳥記録委員会 1986）。また、1989年9月に愛知県名古屋市の庄内川河口でも観察され「野生化した飼鳥」として記録されている（名古屋市農政緑地局管理部農政課 1994）。

2009年12月1日に福岡県福岡市東区三苫において栗原幸則、岡部海都両氏によって1羽が標識放鳥されている（山階鳥類研究所 2011）、その後2010年4月7日～5月1日に石川県舳倉島で複数個体が断続的に観察、撮影されている（平野 2011；田中豊成、伊丹英生 私信）。

(3) 同定と分布に関する知見

学術報告には至っていないが、福岡の記録は測定値とモノクロ写真が、舳倉島の記録はカラー写真が掲載されており、種の判定は確実である。東京都や名古屋での記録を「カゴヌケ」、「野生化した飼鳥」とした経緯は不明であるが、それ以上の記述はなく、記録から除外した。

Family ALAUDIDAE ヒバリ科

MELANOCORYPHA Boie コウテンシ属

449. *Melanocorypha mongolica* (Pallas 1776) コウテンシ

天売島 (AV: 2005年5月), 飛鳥 (AV: 2011年11月), 座間味島 (AV: 2012年3月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

モンゴルと近隣のロシア南部から中国東北部にかけて分布し、留鳥性が強いが、冬期に北の個体群は南に移動するとされる。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

2005年5月4日に北海道天売島で1羽が観察、撮影され、学術報告されている (平田ら 2006)。その後2011年11月23日に山形県飛鳥で1羽が観察、撮影され (五百澤日丸 私信)、2012年3月27日に沖縄県座間味島で1羽が観察、撮影され、新聞報道された (2012年4月1日付け琉球新報記事: 同記事ではクビワコウテンシとしている)。

(3) 同定と分布に関する知見

平田ら (2006) により種の同定は問題ないと考えられるが、本文に「観察個体が自然分布だとすれば、…」として移入を否定できない見解も見られたことから、引き続き検討を要すると判断していた。2012年になって飛鳥と座間味島の記録の情

報が得られたことから、これらを併せて自然分布と考えて不自然ではないと判断した。なお、これら2件の記録は、その後、築川・嵩原 (2012) によって報告されている。

Family HIRUNDINIDAE ツバメ科

RIPARIA Forster ショウドウツバメ属

454. *Riparia paludicola* (Vieillot 1817) タイワンショウドウツバメ

454-1. *Riparia paludicola chinensis* (Gray 1830) タイワンショウドウツバメ

琉球諸島 (AV: 沖縄島, 1999年11月, 与那国島, 2000年5月, 2008年4月, 波照間島, 2010年3月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

アフリカ大陸に7亜種が局地的に分布するほか、亜種 *R. p. tantilla* がルソン島に、亜種 *R. p. chinensis* がアフガニスタン北部からインド北部、中国南部、台湾に分布する (del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

2000年5月5、6日に沖縄県与那国島で最大2羽観察されたことが大西・真木 (2004a) によって学術報告され、1999年11月7日に沖縄県金武町で5羽が観察されたことも記述されている。2008年4月17～20日に与那国島で撮影された本種の写真が情報提供され、目録編集委員会として確認した (小山慎司 私信)。また、2010年3月6日に沖縄県波照間島でも観察、撮影されている (奥土 2012)。

(3) 同定と分布に関する知見

大西・真木 (2004a) により、ショウドウツバメ *R. riparia* との識別点が明らかにされている。写真はないが、宇山 (2011) は与那国島において春と秋、冬に8例の観察を報告しており、与那国島では少数が不定期に渡来している可能性がある。

TACHYGINETA Cabanis ミドリツバメ属

456. *Tachycineta bicolor* (Vieillot 1808) ミドリツバメ

北海道 (AV: 襟裳岬, 1962年10月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

極北部を除く北米中北部で繁殖し、カリフォルニアからフロリダ以南の北米と中米で越冬する。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

1962年10月20日に北海道襟裳岬灯台で1羽の死体が拾得されている (内田 1991; 日本産鳥類記録委員会 2006)。

(2) 同定と分布に関する知見

内田 (1991) の報告は学術論文には該当しないが、計測値も記述されており、準備中の論文要旨とされている。その後、学術報告には至っていないが、山階鳥類研究所に標本が現存することから、目録掲載要件を満たしていると判断した。この記録以外にも観察情報はあがる (川崎 2004 など)、写真等はなく、確認に至っていない。

DELICHON Moore イワツバメ属

460. *Delichon urbicum* (Linnaeus 1758) ニシイワツバメ

460-1. *Delichon urbicum lagopodum* (Pallas 1811) ニシイワツバメ

北海道 (AV: 渡島大島, 1993年5月), 飛鳥 (IV: 1992年5月, 2005年5月), 舩倉島 (IV: 1996年5月, 2010年5月等), 奄美大島 (AV: 2008年2月), 沖縄島 (AV: 1993年3月), 与那国島 (AV: 2004年5月等)。

【記録の出典について】

6版では亜種イワツバメ *D. urbica dasypus* のみが掲載されていたが、本亜種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。また、7版ではイワツバメは種 *D. dasypus* の基亜種として掲載されている。

(1) 種・亜種の分布の概要

ヨーロッパと北アフリカからシベリア, 中央アジアを経て東アジア北部まで広く分布し, アフリカ中南部, アラビア半島南部, インドシナ等で越冬する。3亜種に分けられている (del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

1992年5月7日に山形県飛鳥でイワツバメの亜種シベリアイワツバメ *D. urbica lagopoda* として2羽が標識放鳥され (山階鳥類研究所 1993), 1993年5月26日に北海道渡島大島で2羽が標識放鳥されている (山階鳥類研究所 1994), 6版には反映されていない。その後, 舩倉島 (五百沢ら 2000), 奄美大島 (奄美野鳥の会 2009), 沖縄島

(沖縄野鳥研究会 2002), 与那国島 (宇山 2011) 等の記録があり, 与那国島以外は写真掲載されている。

(3) 同定と分布に関する知見

本亜種はイワツバメに比べて, 腰の白色部分が大きく下面全体が白色という特徴があり, 野外識別も可能である。上記の報告における写真でこの特徴が確認されることから, 本種・亜種と判断した。写真図鑑以外にも観察情報があり, 学術報告が期待される。

Family CETTIIDAE ウグイス科

CETTIA Bonaparte ウグイス属

464. *Cettia diphone* (Kittlitz 1830) ウグイス

464-2. *Cettia diphone borealis* Campbell, 1892 チョウセンウグイス

利尻島 (AV: 1992年5月), 本州 (AV: 新潟, 広島, 鳥取), 舩倉島 (IV), 対馬 (IV), 奄美諸島 (IV: 奄美大島, 沖永良部島, 2006年2月), 琉球諸島 (IV: 沖縄島, 与那国島, 1994年3月), 北大東島 (AV)。

【記録の出典について】

国内に分布するウグイスの亜種は6版で絶滅とされたダイトウウグイス *C. d. restricta* が奄美諸島と沖縄諸島で確認され (梶田ら 2002), リュウキュウウグイス *C. d. riukiensis* の再検討が必要となっているが, 本亜種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した。

(1) 亜種の分布の概要

中国東北部から南ウスリーにかけて繁殖分布し, 中国南部から東南アジアで越冬する (del Hoyo et al. 2006)。

(2) 記録の経緯

McWhirter et al. (1996) で与那国島で1989年以来越冬個体が観察されていることが報告されているが, 写真等はない。1992年5月5日に北海道利尻島で標識放鳥され, 測定値等が報告されている (三浦 1993)。1994年3月に与那国島で観察, 撮影され (五百沢ら 2000), 鳥取県米子市 (神谷 2008), 新潟県新潟市 (伊藤ら 2009) の報告があるほか, 7版では, 各都道府県と島嶼等の地域からの協力者からの報告に基づき追加した。

(3) 同定と分布に関する知見

写真が掲載された報告に基づき, 本亜種と判定した。

なお, 本亜種を *C. canturians* の1亜種として分割されることもあるが (Brazil 2009; Kennerley &

Pearson 2010), ここではウグイスの1亜種として扱った。

Family PHYLLOSCOPIDAE ムシクイ科

PHYLLOSCOPUS Boie ムシクイ属

471. *Phylloscopus affinis* (Tickell 1833) キバラムシクイ

471-U. *Phylloscopus affinis* ssp. 亜種不明
舩倉島 (AV: 1995年5月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

パキスタン北部からヒマラヤを経て中国中北部に繁殖分布し、冬期はネパールからインド東北部、インドシナ北部に渡る (del Hoyo et al. 2006)。本種は Baker (1997), Dickinson (2003), del Hoyo et al. (2006), Clements (2007) では亜種を認めていないが, Martens et al. (2008) によってインド北部の個体群が亜種 *P. a. perflavus* として記載されている。

(2) 記録の経緯

1995年5月19~20日に石川県舩倉島で観察、撮影された (森岡 1997b)。その後、1999年5月23~26日に同島で観察されている (平野 2000)。

(3) 同定と分布に関する知見

過去の記録が日本産鳥類記録委員会 (2005b) にまとめられ、写真図鑑にも掲載されている (五百澤ら 2004)。森岡 (1997b) により、近縁種との識別が論じられている。このほか、2012年5月15日に山形県飛鳥島で (五百澤日丸 私信)、5月16~17日に舩倉島で (平野 2013; 梅垣・中西 2013; 伊丹英生 私信)、それぞれ観察記録がある。捕獲されていないため、観察、撮影記録のみであるが、学術報告されることが望ましい。

475. *Phylloscopus borealis* (Blasius 1858) コムシクイ

475-1. *Phylloscopus borealis borealis* (Blasius 1858)
コムシクイ

本州 (PV: 新潟), 対馬 (PV)。

475-2. *Phylloscopus borealis kennicotti* (Baird 1869)
アメリカコムシクイ

八重山諸島 (PV, WV)。

476. *Phylloscopus examinandus* Stresemann, 1913
オオムシクイ

北海道 (PV, MB: 知床半島), 南千島 (PV,

MB), 本州 (PV), 舩倉島 (PV), 隠岐 (PV), 四国 (PV), 九州 (PV), 琉球諸島 (PV), 大東諸島 (PV)。

【記録の出典について】

(1) 種・亜種の概要および記録の経緯

6版では種メボソムシクイ *P. borealis* として以下の2亜種のみを認めていた。

1. *P. b. borealis* (Blasius, 1858) コメボソムシクイ

2. *P. b. xanthodryas* (Swinhoe, 1863) メボソムシクイ

本種に関する形態、生態、鳴き声、およびDNAレベルでの研究が進められ (Alström et al. 2011), これまでの種メボソムシクイ *P. borealis* が分割されて以下の種、亜種に再編された (齋藤ら 2012)。

1. *P. borealis* (旧亜種コメボソムシクイ) 種コムシクイ

1-1. *P. borealis borealis* 亜種コムシクイ

1-2. *P. borealis kennicotti* 亜種アメリカコムシクイ

2. *P. examinandus* (旧亜種オオムシクイ) 種オオムシクイ

3. *P. xanthodryas* (旧亜種メボソムシクイ) 種メボソムシクイ

(2) 同定と分布に関する知見

オオムシクイについては日本鳥学会 (1958) に掲載されていたが、5版以降は認められていなかった。また、亜種アメリカコムシクイはアラスカ西部に繁殖分布し、フィリピンからインドネシアで越冬するする亜種であるが (del Hoyo et al. 2006), 沖縄県八重山地方で確認されている (齋藤ら 2012; 齋藤武馬 私信)。

いずれの種、亜種もよく似ており、現在のところ、鳴き声以外の野外識別は困難と思われる。

478. *Phylloscopus plumbeitarsus* Swinhoe, 1861 ヤナギムシクイ

舩倉島 (AV: 2001年5月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

東部シベリアから中国東北部、朝鮮半島北部に繁殖分布し、インドシナ半島で越冬するとされる。*P. trochiloides* の1亜種とされたこともあるが (Baker 1997), 近年は独立種とされ、亜種は認められていない (del Hoyo et al. 2006)。

(2) 記録の経緯

日本産鳥類記録委員会 (2005b) では、フタオビヤナギムシクイとして、1999年5月の記録をはじめ、石川県舩倉島からの6回の記録をまとめている。このうち2001年5月20日の記録は五百沢ら (2004) に掲載されている。

(3) 同定と分布に関する知見

渡部 (2011) は本種をヤナギムシクイとして記録をとりまとめ学術報告し、1998年9月13日の記録から2009年5月29日の記録まで、同定の根拠が判明した事例を11例としている。舩倉島以外では山口県見島の記録を取り上げているが、写真は撮影されていない。

Family SYLVIIDAE ズグロムシクイ科

SYLVIA Scopoli ズグロムシクイ属

482. *Sylvia curruca* (Linnaeus 1758) コノドジロムシクイ482-U. *Sylvia curruca* ssp. 亜種不明

北海道 (AV: 函館, 1994年10月, 根室, 2002年12月-2003年1月, 2007年12月), 本州 (AV: 山形, 1998年2月, 東京, 2008年1-2月, 愛知, 2003年2月, 三重, 2007年11月), 飛鳥 (AV: 2009年10月), 舩倉島 (AV: 2008年5月, 2009年9月), 四国 (AV: 高知, 2007年4月), 伊豆諸島 (AV: 神津島, 2009年11月), 奄美大島 (AV: 2007年4月)。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。学術報告として、和田・佐藤 (1998), および渡部・池長 (2010) がある。

Family ZOSTEROPIDAE メジロ科

ZOSTEROPS Vigors & Horsfield メジロ属

484. *Zosterops erythropleurus* Swinhoe, 1863 チョウセンメジロ

北海道 (AV: 函館山, 1999年9月, 地球岬, 1999年10月), 本州 (AV: 新潟, 石川, 福井, 1974年11月, 鳥根), 飛鳥 (PV), 舩倉島 (PV), 見島 (PV), 与那国島 (IV)。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。安部ら (1976) の学術報告があり、写真図鑑での掲載 (五百沢ら 2000; 真木・大西 2000 など) があるほか、7版では各都道府県と島

嶼等の地域からの協力者からの報告に基づき追加した。

Family ACROCEPHALIDAE ヨシキリ科

ACROCEPHALUS Naumann & Naumann ヨシキリ属

494. *Acrocephalus sorghophilus* (Swinhoe 1863) セスジコヨシキリ

与那国島 (AV: 2002年10月)。

【記録の出典について】

本種は過去の日録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

正確な繁殖地は明らかになっていないが、おそらく中国東北部で繁殖し、フィリピンで越冬すると考えられている。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 2006; Kennerley & Pearson 2010)。

(2) 記録の経緯

2002年10月11日に沖縄県与那国島で1羽が標識放鳥されている (山階鳥類研究所 2003; 日本産鳥類記録委員会 2005a)。

(3) 同定と分布に関する知見

五百沢ら (2004) に掲載され、第1回冬羽とされている。本種であることは確認できるが、世界的に十分には知られていない種であり、測定値や捕獲時の状況等を含め、学術報告されることが望ましい。

495. *Acrocephalus agricola* (Jerdon 1845) イナダヨシキリ495-U. *Acrocephalus agricola* ssp. 亜種不明

本州 (AV: 宮城, 2005年11月, 2010年10月)。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。2005年11月3日の宮城県燕栗沼で標識放鳥された個体 (山階鳥類研究所 2006, 2009) および2010年10月24日に宮城県東松山市鳴瀬川河口で標識放鳥された個体 (山階鳥類研究所 2012) は測定値等によりマンシュウイナダヨシキリ (コクリュウコウイナダヨシキリ) *A. tangorum* ではなく、本種であることが明らかになっている。本種は、基亜種の外に *A. a. spetima* と *A. a. caspistrata* (中国北西部まで分布する一番東の亜種) の3亜種に分けられているが、7版では亜種不明とした。1992年5月に舩倉島で観察、撮影されている個体は *A. tangorum* との識別に関する記

述がなく、本種と判定することができない（五百沢ら 2000；日本産鳥類記録委員会 2005a）。なお、宮城県の記録はいずれも標識放鳥の記録のみであり、学術報告されることが望ましい。

496. *Acrocephalus dumetorum* Blyth, 1849 ヤブヨシキリ

北海道（AV：福島町，1999年10月），舩倉島（AV：2007年10月），久米島（AV：2000年5月）。

【記録の出典について】

本種は過去の日録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

東ヨーロッパ北部からロシア，バイカル湖西岸および中央アジアに繁殖分布し，インドから東南アジアで越冬する。亜種は認められていない（del Hoyo et al. 2006；Kennerley & Pearson 2010）。

(2) 記録の経緯

日本産鳥類記録委員会（2005a）で，和名シベリアヨシキリとして記録が取りまとめられている。1999年10月22日に北海道福島町軒で鳥類標識調査において1羽が捕獲され（林 2008），2000年5月3日に沖縄県久米島の奥武島において1羽が標識放鳥されている（髙原ら 2001；山階鳥類研究所 2002）。さらに2007年10月13，14日に石川県舩倉島で1羽が観察，撮影されている（平野 2008）。

(3) 同定と分布に関する知見

捕獲によって，種の識別がされており，写真も公表されているが（平野 2008），学術報告されることが望ましい。

IDUNA Keyserling & Blasius ヒメウタイムシクイ属

498. *Iduna caligata* (Lichtenstein 1823) ヒメウタイムシクイ

舩倉島（AV：1999年9月，2010年9月），トカラ列島（AV：平島，2009年10月）。

【記録の出典について】

本種は過去の日録で検討されておらず，今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

ロシア西部，西南部からシベリア中南部，モンゴル北西部にかけて繁殖分布し，インド東部で越冬する。亜種は認められていない（del Hoyo et al. 2006；Kennerley & Pearson 2010）。

(2) 記録の経緯

1999年9月26～29日に石川県舩倉島で1羽が観察，撮影され（平野 2001），渡部ら（2005）により学術報告されている。2009年10月10日にトカラ列島平島で1羽が観察，撮影され，高木（2011）によって学術報告されている。さらに2010年9月18日～10月13日に石川県舩倉島で最大2羽が観察，撮影されている（平野 2011）。

(3) 同定と分布に関する知見

渡部ら（2005）および高木（2011）によって詳細に記述されている。

Family TROGLODYTIDAE ミソサザイ科

TROGLODYTES Vieillot ミソサザイ属

504. *Troglodytes troglodytes* (Linnaeus 1758) ミソサザイ

504-1. *Troglodytes troglodytes dauricus* Dybowski & Taczanowski, 1884 チョウセンミソサザイ
本州（AV：島根，1938年12月），久米島（AV：1998年12月）。

【記録の出典について】

本亜種は5版において掲載が見送られていた亜種であり，過去の記録とその検討については池長ら（2012）を参照されたい。なお，沖縄県久米島の記録は標識放鳥のみの記録であり，学術報告されることが望ましい。

Family STURNIDAE ムクドリ科

PASTOR Temminck パライロムクドリ属

510. *Pastor roseus* (Linnaeus 1758) パライロムクドリ

舩倉島（IV），本州（AV：東京，島根），四国（AV：高知），九州（AV：鹿児島），小笠原群島（AV：母島，2010年7月），トカラ列島（IV：諏訪之瀬島），奄美大島（IV），琉球諸島（IV：沖縄島，宮古島，石垣島，与那国島）。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており，過去の記録とその検討については池長ら（2012）を参照されたい。所崎ら（2002）によって学術報告され，佐藤ら（2010）によって過去の記録がとりまとめられている。

Family MUSCICAPIDAE ヒタキ科

CATHARUS Bonaparte チャツグミ属

516. *Catharus minimus* (Lafresnaye 1848) ハイイロチャツグミ

516-1. *Catharus minimus aliciae* (Baird 1858) ハイイロチャツグミ

舩倉島 (AV: 2004 年 10 月).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

北米大陸ではアラスカからカナダ北部に、ユーラシア大陸側ではシベリア北東部に繁殖分布し、南北回帰線に囲まれた南米北部で越冬する (del Hoyo et al. 2005). 基亜種の他に *C. m aliciae* が知られているが、北西シベリアに分布するのは基亜種 (Dickinson 2003; Clements 2007) とする場合と、*aliciae* (Clement 2000; del Hoyo et al. 2005) とする場合がある。

(2) 記録の経緯

2004 年 10 月 6, 7 日に石川県舩倉島で観察、撮影された (平野 2005; 森岡 2005b).

(3) 同定と分布に関する知見

橋・岡村 (2006) により学術報告されている。これまで、国内では唯一の記録と思われる。

TURDUS Linnaeus ツグミ属

524. *Turdus ruficollis* Pallas, 1776 ノドグロツグミ

524-2. *Turdus ruficollis ruficollis* Pallas, 1776 ノドアカツグミ

北海道 (AV: 森町, 2003 年 1 月, 新十津川町, 2005 年 3 月), 本州 (AV: 山形, 石川, 大阪, 島根, 山口), 舩倉島 (AV), 九州 (AV: 熊本, 2010 年 2 月), 対馬 (AV), トカラ列島 (AV: 平島, 2004 年 11 月), 奄美大島 (AV: 2006 年 12 月), 琉球諸島 (AV: 沖縄島, 西表島, 2003 年 1 月, 与那国島).

【記録の出典について】

本亜種については、6 版の APPENDIX C において、井上 (1981) の記録をハチジョウツグミ *T. naumani naumani* だとして否定していることから、その後の記録について掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

本亜種は中南部シベリアからモンゴル、中国東北部に繁殖分布し、インド東北部からミャンマー、中国南部で越冬する。亜種ノドグロツグミ *T. r. atrogularis* と分離して独立種とされることもある

(del Hoyo et al. 2005).

(2) 記録の経緯

2003 年 1 月 20 日に北海道砂原町 (現森町) で特徴的な雄成鳥 1 羽が観察、撮影され、写真図鑑に掲載されている (五百沢ら 2004).

(3) 同定と分布に関する知見

森岡 (1999a) によって、ハチジョウツグミとの識別が解説されている。本亜種は 2000 年以降各地で記録が見られ、写真図鑑等での掲載 (真木・大西 2000; 橋 2008; 奄美野鳥の会 2009 など) があるほか、7 版では、各都道府県と島嶼等の地域からの協力者からの報告に基づき追加した。ただし、各地域の記録が必ずしも印刷物として報告されているとは限らず、学術報告されることが望ましい。

528. *Turdus viscivorus* Linnaeus, 1758 ヤドリギツグミ

528-U. *Turdus viscivorus* ssp. 亜種不明

本州 (AV: 愛知, 1984 年 2 月), 舩倉島 (AV: 1999 年 10 月), 九州 (AV: 福岡, 1998 年 11 月).

【記録の出典について】

本種は 6 版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。舩倉島の記録が平野・尾崎 (2002) により学術報告されている。また、Brazil (2003) は 3 例の記録を報告し、愛知県の記録については亜種 *T. v. bonapartei* であるとしている。

ERITHACUS Cuvier ヨーロッパコマドリ属

529. *Erithacus rubecula* (Linnaeus 1758) ヨーロッパコマドリ

529-U. *Erithacus rubecula* ssp. 亜種不明

北海道 (AV), 本州 (AV: 千葉, 奈良), 飛鳥 (AV), 舩倉島 (AV).

【記録の出典について】

本種は 6 版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。佐々木・佐々木 (1999) および久保・佐藤 (2010) の学術報告があるが、亜種は判定していない。

PHOENICURUS Forster ジョウビタキ属

537. *Phoenicurus erythronotus* (Eversmann 1841) セアカジョウビタキ

利尻島 (AV: 2000 年 10 月).

【記録の出典について】

本種は過去を目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

バルハシ湖南部からバイカル湖に至るカザフスタン東部、モンゴル北西部、中国西部に繁殖分布し、インド、パキスタン北部で越冬する。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 2005)。

(2) 記録の経緯

2000年10月21日に北海道利尻島で雄1羽が観察、撮影され、新聞報道された (2000年11月14日付け北海道新聞記事)。

(3) 同定と分布に関する知見

小杉 (2001) により「速報」として概要が報告され、種の判定については適切であり迷行個体と判断した。これまで、国内では唯一の記録と思われる、学術報告されることが望ましい。

539. *Phoenicurus phoenicurus* (Linnaeus 1758)

シロビタイジョウビタキ

539-1. *Phoenicurus phoenicurus phoenicurus*

(Linnaeus 1758) シロビタイジョウビタキ

舩倉島 (AV: 1998年11月)。

【記録の出典について】

本種は過去を目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

ヨーロッパからモンゴル北部まで繁殖分布し、赤道と北回帰線の間のアフリカとアラビア半島で越冬する。基亜種の他、バルカン半島からイラクにかけて *P. p. samamisticus* が分布している (del Hoyo et al. 2005)。

(2) 記録の経緯

1998年11月1~4日に石川県舩倉島で雄1羽が観察、撮影されているほか、翌年も同島で記録があるとされ、川路ら (2003) によってとりまとめられている。また2005年4月23日に舩倉島で雌1羽の記録があるが、写真等は掲載されていない (平野 2006)。さらに2011年5月3日に舩倉島で1羽が観察、撮影されている (平野 2012)。

(3) 同定と分布に関する知見

1998年の記録は、橘 (1999)、平野 (1999)、五百沢ら (2000) 等に掲載されているほか、平野・橘 (2002) によって学術報告されている。

SAXICOLA Bechstein ノビタキ属

541. *Saxicola rubetra* (Linnaeus 1758) マミジロノビタキ

舩倉島 (AV: 2009年9-10月)、沖縄島 (AV: 1998年9月)。

【記録の出典について】

本種は過去を目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

ヨーロッパからロシア西部に繁殖分布し、アフリカ中部で越冬する。亜種は認められていない (del Hoyo et al. 2005)。

(2) 記録の経緯

1998年9月23日に沖縄県大宜味村で1羽が観察、撮影されている (髙原ら 2000: 沖縄野鳥研究会 2010)。その後、2009年9月29日~10月14日に石川県舩倉島で1羽が観察、撮影されている (Cooper ら 2010)。

(3) 同定と分布に関する知見

Cooper ら (2010) によって学術報告されている。これまで、国内では2記録のみと思われる。

543. *Saxicola caprata* (Linnaeus 1766) クロノビタキ543-U. *Saxicola caprata* ssp. 亜種不明

粟島 (AV: 2004年5月)、琉球諸島 (AV: 宮古島, 2002年5月、与那国島, 1989年1月, 2004年3月)。

【記録の出典について】

本種は過去を目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

イラン東北部からインド、インドシナ半島、スンダ列島、ニューギニア、フィリピンに分布する。16亜種に分けられている (del Hoyo et al. 2005)。

(2) 記録の経緯

1989年1月24日~3月2日に沖縄県与那国島で観察、撮影されている (五百沢 1991: 川路ら 2003)。その後、2002年5月に宮古島で雄1羽 (砂川 2011)、与那国島で2004年3月30日~4月1日に雄1羽、4月13日に雌1羽 (宇山 2011) が記録されている。さらに2004年5月20日に新潟県粟島で雌1羽が観察、撮影されている (森岡 2005a; 高田 2009)。

(3) 同定と分布に関する知見

亜種について、五百沢 (1991) では *S. c. caprata* の可能性を示唆し、五百沢ら (2004) では同一個

体について *S. c. burmanica* としている。高田 (2009) による学術報告では亜種は判定されていない。

MUSCICAPA Brisson サメビタキ属

551. *Muscicapa striata* (Pallas 1764) ムナフヒタキ
551-1. *Muscicapa striata mongola* Portenko, 1955
ムナフヒタキ

舢倉島 (AV: 2004 年 9 月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

ヨーロッパからバイカル湖周辺まで繁殖分布し、アフリカ中南部で越冬する。7 亜種に分けられており、そのうち *M. s. mongola* は最も東側に分布する亜種である (del Hoyo et al. 2006)。

(2) 記録の経緯

2004 年 9 月 24~26 日に石川県舢倉島で 1 羽が観察、撮影されている (平野 2005)。

(3) 同定と分布に関する知見

大西ら (2010) によって学術報告され、亜種についても論じられている。これまで、国内では唯一の記録と思われる。

555. *Muscicapa ferruginea* (Hodgson 1845) ミヤマヒタキ

本州 (AV: 愛知), 見島 (AV), 男女群島 (AV: 女島), トカラ列島 (AV: 平島), 琉球諸島 (AV: 沖縄島, 宮古島, 与那国島)。

【記録の出典について】

本種は 5 版において掲載が見送られ、6 版において検討種とされている。過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。所崎 (2000) による報告 (和名をミヤマヒタキとしている) は学術報告に準じると考えられる。なお、この他に、大谷 (2004) は 2003 年 10 月 4 日に石垣島で本種を観察したことを記述しているが、写真等は示されていない。

CYANOPTILA Blyth オオルリ属

561. *Cyanoptila cyanomelana* (Temminck 1829)
オオルリ
561-1. *Cyanoptila cyanomelana cumatilis* Thayer & Bangs, 1909 チョウセンオオルリ

九州 (AV: 黒島, 1997 年 9 月)。

【記録の出典について】

本亜種は 5 版において掲載が見送られていた亜

種であり、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。茂田 (2003) による学術報告がある。

なお、本亜種を独立種 *C. cumatilis* とし、本亜種のシノニムとされている *intermedia* をオオルリと同種の亜種 *C. cyanomelana intermedia* として再認識する報告もある (Leader & Carey 2012)。その場合、国内で記録された亜種は *cumatilis* ではなく *intermedia* の可能性がある (茂田良光 私信)。

EUMYIAS Cabanis アイイロヒタキ属

562. *Eumyias thalassinus* (Swainson 1838) ロクショウヒタキ

562-U. *Eumyias thalassinus* ssp. 亜種不明
石垣島 (AV: 2011 年 3 月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

ヒマラヤから中国中南部, インドシナ半島にかけて分布し、2 亜種に分けられている。基亜種はインド, 中国南部に移動する (del Hoyo et al. 2006)。台湾で迷鳥として記録がある (方 2008)。

(2) 記録の経緯

1995 年 11 月 15 日に東京都杉並区で観察された個体は飼育個体の逸出と判断されている (日本産鳥類記録委員会 2004)。2011 年 3 月 1 日に沖縄県石垣島で 1 羽が観察、撮影され、自然分布と考えられる (鳥くん・中本 2011)。

(3) 同定と分布に関する知見

鳥くん・中本 (2011) では観察日を 3 月 11 日と誤植している (無記名 2011) が、十分識別可能な写真が掲載されており、目録掲載の要件を満たしていると判断した。

その後、2012 年 12 月 16~25 日に、鹿児島県下甕島で 1 羽が観察、撮影され、学術報告されている (所崎ら 2013)。

NILTAVA Hodgson アオヒタキ属

563. *Niltava vivida* (Swinhoe 1864) チャバラオオルリ

563-1. *Niltava vivida vivida* (Swinhoe 1864) チャバラオオルリ

琉球諸島 (AV: 沖縄島, 1989 年 5 月, 与那国島, 1998 年 3 月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初

めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

2 亜種に分けられているが、基亜種は台湾に分布し、亜種 *N. v. oatesi* が中国中南部からインドシナ北部に分布する (del Hoyo et al. 2006)。

(2) 記録の経緯

1989 年 5 月 2 日に沖縄県糸満市で雄 1 羽が保護され (McWhirter et al. 1996), 1998 年 3 月 24 日に沖縄県与那国島で雄 1 羽が観察, 撮影されている (矢田 1998; 沖縄野鳥研究会 2002; 宇山 2011)。記録の経緯については日本産鳥類記録委員会 (2004) に取りまとめられている。

(3) 同定と分布に関する知見

McWhirter et al. (1996) では、糸満市の記録について飼育個体からの逸出の可能性もあるとしているが、与那国島での記録 (沖縄野鳥研究会 2002) は、台湾からの迷行と考えられる。これまで、国内では 2 記録のみと思われ、学術報告されることが望ましい。

Family MOTACILLIDAE セキレイ科

MOTACILLA Linnaeus セキレイ属

571. *Motacilla flava* Linnaeus, 1758 ツメナガセキレイ

571-1. *Motacilla flava plexa* (Thayer & Bangs 1914)
シベリアツメナガセキレイ

本州 (AV: 茨城, 1998 年 5 月, 鳥根, 山口), 対馬 (AV: 1995 年 5 月), 沖縄島 (AV: 1988 年 3 月)。

【記録の出典について】

本亜種は 5 版において掲載が見送られていた亜種であり、過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい。7 版では、各都道府県と島嶼等の地域からの協力者からの報告に基づき追加した。

571-2. *Motacilla flava leucocephala* (Przewalski 1887) カオジロツメナガセキレイ

トカラ列島 (AV: 平島, 1988 年 5 月, 2011 年 5 月)。

【記録の出典について】

本亜種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 亜種の分布の概要

モンゴル北西部から中国新疆ウイグル自治区に繁殖分布し、おもにインドで越冬するとされる (Alström & Mild 2003; del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

1988 年 5 月 3 日と 2011 年 5 月 3 日に鹿児島県平島でそれぞれ 1 羽が観察, 撮影されている。

(3) 同定と分布に関する知見

所崎 (2011) の報告ではカラー写真に加え、他の亜種との比較についても述べられており、学術報告に準じた掲載要件を満たしていると判断した。

574. *Motacilla alba* Linnaeus, 1758 ハクセキレイ

本種の亜種は、6 版ではタイワンハクセキレイ *M. a. ocularis*, ハクセキレイ *M. a. lugens*, ホオジロハクセキレイ *M. a. leucopsis* の 3 亜種が掲載されていたが、7 版では新たに 4 亜種を追加した。

574-1. *Motacilla alba dukhunensis* Sykes, 1832 ニシシベリアハクセキレイ

与那国島 (AV: 1999 年 3 月, 2002 年 3 月, 2009 年 4 月)。

【記録の出典について】

本亜種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 亜種の分布の概要

中央アジアからシベリア西部に繁殖分布し、中東からインドで越冬する (del Hoyo et al. 2004)。基亜種のシノニムとされることもある (Alström & Mild 2003)。

(2) 記録の経緯

2002 年 3 月 9 日に沖縄県与那国島で観察, 撮影された個体について、本亜種とする報告があり (森岡 2003), 五百沢 (2004) で示されている 1999 年 3 月 16 日の与那国島の個体も同様と判断される。さらに 2009 年 4 月に与那国島での観察例についても情報が寄せられている (土方秀行 私信)。

(3) 同定と分布に関する知見

森岡 (2003) の報告はカラー写真と共に識別点が詳述され、学術報告に準じた掲載要件を満たしていると判断した。

574-2. *Motacilla alba personata* Gould, 1861 メンガタハクセキレイ

九州 (AV: 熊本, 2009 年 4 月, 鹿児島, 2010 年 5 月), 伊豆諸島 (AV: 神津島, 2011 年 4 月), トカラ列島 (AV: 中之島, 2002 年 4 月), 奄美大島 (AV: 2010 年 4 月), 八重山諸島 (AV: 石垣島, 2002 年 3 月, 西表島, 2009 年 3 月, 与那国島, 2005 年 3 月)。

【記録の出典について】

本亜種は過去の目録で検討されておらず、今回

初めて掲載を検討した。

(1) 亜種の分布の概要

中央アジアのカスピ海東岸からロシア南部、モンゴル西部にかけて繁殖分布し、イランからインドにかけて越冬する (Alström & Mild 2003; del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

2002年3月31日に沖縄県石垣島で雄成鳥夏羽の1羽が観察、撮影され (桐原・杉坂 2002)、同年4月15日に鹿児島県トカラ列島平島でも1羽が観察、撮影された (関ら 2011)。その後、2005年3月24、25日に沖縄県与那国島でも観察、撮影されている (高原ら 2008; 沖縄野鳥研究会 2010)。

(3) 同定と分布に関する知見

額から顔は白く、頭上から後頸、腮から喉が黒く、白い仮面を着けたように見える特徴を捉えた写真が公表されており、同定に問題はない (桐原・杉坂 2002; 沖縄野鳥研究会 2010; 関ら 2011)。7版では、各都道府県と島嶼等の地域からの協力者からの報告に基づき追加した。

574-3. *Motacilla alba alboides* Hodgson, 1836 ネパールハクセキレイ

与那国島 (AV: 1994年2月)。

【記録の出典について】

本亜種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 亜種の分布の概要

ヒマラヤから中国西南部、インドシナ半島中部に繁殖分布し、バングラデシュからタイにかけて越冬する (Alström & Mild 2003; del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

1994年2月19日に沖縄県与那国島で1羽が観察された (McWhirter et al. 1996; 五百沢 2004)。

(3) 同定と分布に関する知見

五百沢 (2004) に観察の経緯と観察個体の特徴が述べられている。これまで、国内では唯一の記録と思われる。

574-4. *Motacilla alba baicalensis* Swinhoe, 1871 シベリアハクセキレイ

本州 (AV: 島根)、舩倉島 (AV)、見島 (AV)、対馬 (AV)、沖縄島 (AV)、与那国島 (AV)。

【記録の出典について】

本亜種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 亜種の分布の概要

シベリア中南部からモンゴル、中国東北部にかけて繁殖分布し、中国東南部からインドシナ半島で越冬する (Alström & Mild 2003; del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

我が国での最初の記録については定かではないが、1992年3月に沖縄県与那国島で観察、撮影されている (McWhirter et al. 1996; 五百沢ら 2000)。また、1999年5月2日に石川県舩倉島で1羽が観察されている (平野 2000)。

(3) 同定と分布に関する知見

写真図鑑や公表されている写真と解説によって判断した (五百沢ら 2000; 平野 2000 など)。本亜種は成鳥夏羽では過眼線がなく背が一様に淡灰青色という特徴があるが、ホオジロハクセキレイの特に雌第1回冬羽の個体に類似しているため、識別に留意する必要がある。7版では、各都道府県と島嶼等の地域からの協力者からの報告に基づき追加した。

ANTHUS Bechstein タヒバリ属

578. *Anthus pratensis* (Linnaeus 1758) マキバタヒバリ

578-U. *Anthus pratensis* ssp. 亜種不明

本州 (AV: 京都, 2011年1-4月)、舩倉島 (AV)、九州 (AV: 福岡, 1997年1-4月)、奄美大島 (AV: 2006年12月)、沖縄島 (AV: 1999年2月)、与那国島 (AV: 2002年12月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

ヨーロッパ北部からシベリア西部に繁殖分布し、地中海沿岸から中東にかけて越冬する。暗色で赤味を帯びるアイルランドとスコットランドの個体群を亜種 *whistleri* として認め、2亜種とする場合 (del Hoyo et al. 2004) と、変化をクラインと見なし単型種とする場合がある (Alström & Mild 2003)。

(2) 記録の経緯

1997年1~4月に福岡県福岡市で1羽が観察、撮影された (森岡 1999b; 五百沢ら 2000)。その後、1999年2月に沖縄県金武町 (沖縄野鳥研究会 2002)、2006年12月に鹿児島県奄美大島龍郷町 (後藤 2007; 奄美野鳥の会 2009) 等で観察、撮影されており、石川県舩倉島では2001年11月8日 (平野 2002)、2002年10月17日 (平野 2004)、2006

年12月15日(平野 2007)に記録されている。また、2011年1月29日に京都府巨椋干拓地で1羽が観察、観察されており(東出 2011)、4月5日まで記録されている(石井照昭 私信)。

(3) 同定と分布に関する知見

識別については森岡(1999b)に詳述されている。これまで学術報告されていないが、写真図鑑等への掲載がある。7版では、各都道府県と島嶼等の地域からの協力者からの報告に基づき追加した。

582. *Anthus roseatus* Blyth, 1847 ウスベニタヒバリ

九州(AV:福岡, 2009年1-4月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

アフガニスタンからヒマラヤを経て中国中部の山岳地帯で繁殖分布し、インドからタイの北部で越冬する。亜種は認められていない(Alström & Mild 2003; del Hoyo et al. 2004)。

(2) 記録の経緯

2009年1月25日~4月12日に福岡県福津市で1羽が観察、撮影された。

(3) 同定と分布に関する知見

波多野ら(2011)の学術報告で詳述されている。

Family PARULIDAE アメリカムシクイ科

SETOPHAGA Swainson ハゴロモムシクイ属

605. *Setophaga coronata* (Linnaeus 1766) キツタ
アメリカムシクイ

605-1. *Setophaga coronata coronata* (Linnaeus 1766)
キツタアメリカムシクイ

本州(AV:神奈川, 2010年1-4月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

北米中北部に繁殖分布し、北米南部から中米で越冬する(del Hoyo et al. 2010)。4亜種(Curson et al. 1994; Dunn & Garrett 1997; Dickinson 2003; Clements 2007)、または5亜種(del Hoyo et al. 2010)に分けられ、基亜種は“Myrtle”タイプ、他の亜種は“Audubon's”タイプとされる(Curson et al. 1994; Dunn & Garrett 1997)。

(2) 記録の経緯

2010年1月19日に神奈川県鎌倉市で観察、撮影され、その後3月24日~4月9日に再び鎌倉市で観察、撮影された。

(3) 同定と分布に関する知見

池・池長(2010)の学術報告で詳述されている。これまで、国内では唯一の記録と思われる。

CARDELLINA Bonaparte アカガオアメリカムシクイ属

606. *Cardellina pusilla* (Wilson 1811) ウィルソンアメリカムシクイ

606-U. *Cardellina pusilla* ssp. 亜種不明

舢倉島(AV:1991年10月)。

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており、過去の記録とその検討については池長ら(2012)を参照されたい。関連の記録については日本産鳥類記録委員会(2004)に整理されている。文屋(1992)の報告があり、五百沢ら(2000)と併せて、掲載要件を満たしていると判断した。これまで、国内では唯一の記録と思われる。

Family EMBERIZIDAE ホオジロ科

EMBERIZA Linnaeus ホオジロ属

607. *Emberiza lathamii* Gray, 1831 レンジャクノジコ

西表島(AV:1987年5月)。

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず、今回初めて掲載を検討した。

(1) 種・亜種の分布の概要

パキスタン北東部からインド中部、中国中南部に分布し、一部はインドシナ半島北部に渡る。亜種は認められていない(del Hoyo et al. 2011)。

(2) 記録の経緯

1987年5月27日に沖縄県西表島で雌成鳥1羽が観察、撮影された(吉見 1992; 五百沢ら 2004)。

(3) 同定と分布に関する知見

日本産鳥類記録委員会(2008)により本種の記録が取りまとめられているが、これまで、国内では唯一の記録と思われる。写真図鑑等への掲載で本種と確認されること、八重山地方は本来の分布域に近いことから自然分布と判断した。学術報告されることが望ましい。

611. *Emberiza buchanani* Blyth, 1845 イワバホオジロ

611-U. *Emberiza buchanani* ssp. 亜種不明

飛鳥 (AV: 2008年9月), 舩倉島 (AV: 1997年10月).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

トルコ東部から中東, モンゴル西部にかけて繁殖分布し, インド中西部で越冬する. 3亜種に分けられている (del Hoyo et al. 2011).

(2) 記録の経緯

1997年10月25~27日に石川県舩倉島で雄成鳥1羽が観察, 撮影された (森岡 1998b; 日本産鳥類記録委員会 2008). その後, 2008年9月24日に山形県飛鳥で雌成鳥または雄第1回冬羽とされる1羽が観察, 撮影されている (板谷・由井 2012).

(3) 同定と分布に関する知見

舩倉島での記録は森岡 (1998b) により識別点が詳述されている. また, 飛鳥の記録は板谷・由井 (2012) の学術報告がある.

622. *Emberiza bruniceps* Brandt, 1841 チャキンチョウ

飛鳥 (AV: 1995年5月), 舩倉島 (AV), 対馬 (AV), 与那国島 (AV).

【記録の出典について】

本種は6版において検討種とされており, 過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい. 写真図鑑 (五百沢ら 2000 など) には掲載されているが, 学術報告されていない. なお, 本種とズグロチャキンチョウ *E. melanocephala* との識別については森岡 (1997a) による解説がある.

MELOSPIZA Baird ウタズズメ属

630. *Melospiza melodia* (Wilson 1810) ウタズズメ

630-U. *Melospiza melodia* ssp. 亜種不明

見鳥 (AV: 2007年5月).

【記録の出典について】

本種は過去の目録で検討されておらず, 今回初めて掲載を検討した.

(1) 種・亜種の分布の概要

アリューシャン列島から北米中部に広く分布し, 一部は冬期に北米南部まで移動する (del Hoyo et al.

2011). 39亜種 (Dickinson 2003; Clements 2007), または25亜種 (del Hoyo et al. 2011) に分けられている.

(2) 記録の経緯

2007年5月5日に山口県見鳥で1羽が観察, 撮影された.

(3) 同定と分布に関する知見

前田ら (2008) により学術報告され, 亜種の検討もされている.

PASSERCULUS Bonaparte サバンナシトド属

633. *Passerculus sandwichensis* (Gmelin 1789) サバンナシトド

633-1. *Passerculus sandwichensis sandwichensis* (Gmelin 1789) サバンナシトド

北海道 (AV: 根室, 2004年2月), 本州 (IV: 青森, 岩手, 宮城, 新潟, 埼玉, 茨城, 千葉, 東京, 愛知, 石川, 鳥根), 舩倉島 (AV), 四国 (AV: 香川, 高知), 九州 (IV: 長崎, 鹿児島), 沖縄島 (AV).

【記録の出典について】

本種は5版において掲載が見送られ, 6版において検討種とされていたものである. 過去の記録とその検討については池長ら (2012) を参照されたい.

永田・石本 (2000) および山本 (2005) による学術報告がある. 7版では, 各都道府県と島嶼等の地域からの協力者からの報告に基づき追加した.

上記の各種の記録および文献の確認にあたり, 各都道府県・島嶼地域の鳥類記録取りまとめ担当の方から情報をいただいたほか, 出口敏也, 五百澤日丸, 石井照昭, 伊丹英生, 岩本和行, 古山隆, 土方秀行, 加藤匠, 木村孝典, 小林雅裕, 仲本純市, 貞光隆志, 齋藤武馬, 佐藤進, 茂田良光, 嵩原建二の各氏から私信を提供いただいた. また, 日本産鳥類記録委員会の亀谷辰朗委員長と梶田学委員から多大な情報提供と重要なコメントをいただいた. 記して感謝の意を表する.

引用文献

- 安部直哉・黒沢 収・真野 徹 (1976) 日本初記録 *Zosterops erythropleura* について. 山階鳥研報 8: 95-100.
- Alström P & Mild K (2003) *Pipits and Wagtails*. Princeton University Press, Princeton.
- Alström P & Olsson U (1985) First Record of Iceland Gull *Larus glaucoides* from Japan. Strix 4: 70-72.
- Alström P, Saitoh T, Williams D, Nishiumi I, Shigete Y, Ueda K, Irested M, Björklund M & Olsson U (2011) The Arctic Warbler *Phylloscopus borealis* – three anciently separated cryptic species revealed. Ibis 153: 395-410.

- 奄美野鳥の会 (編) (2009) 奄美の野鳥図鑑. 文一総合出版, 東京.
- Baker K (1997) *Warblers of Europe, Asia, and North Africa*. Princeton University Press, Princeton.
- バーダー編集部 (1995) 最近何か出てますか?—野鳥情報ネットワーク—. *Birder* 9(3): 85.
- バーダー編集部 (1999a) 珍客万来—君は誰?. *Birder* 13(2): 8–43.
- バーダー編集部 (編) (1999b) 写真集 日本の鳥 1998. 文一総合出版, 東京.
- バーダー編集部 (編) (2003) 写真集 日本の鳥 2002. 文一総合出版, 東京.
- バーダー編集部 (編) (2005) 写真集 日本の鳥 2004. 文一総合出版, 東京.
- バーダー編集部 (編) (2006) 写真集 日本の鳥 2005. 文一総合出版, 東京.
- Brazil M (1983) A Sight Record of Yellow-legged Herring Gull from Kyushu, Japan. *Tori* 32: 112.
- Brazil M (2003) Mistle Thrush *Turdus viscivorus*: New for Japan. *J Yamashina Inst Ornithol* 34: 320–324.
- Brazil M (2009) *Birds of East Asia*. Christopher Helm, London.
- 文屋 誠 (1992) ウィルソンアメリカムシクイと出会う. *Birder* 6(2): 18.
- Byrkjedal I & Thompson DBA (1998) *Tundra Plovers: The Eurasian, Pacific and American Golden Plovers and Grey Plover*. T & AD Poyser, London.
- 千葉 晃 (2011) 新潟県の野鳥 (NO. 136) コシジロウズラシギ *Calidris fuscicollis*. *新潟野鳥* (155): 1.
- 千葉 晃・高辻 洋 (2012) 新潟市日和山海岸の埋め立て地で観察されたコシジロウズラシギ. *日鳥学誌* 61: 296–298.
- 千葉県史料研究財団 (2005) 千葉県の自然誌 別編3 千葉県動物写真集. 千葉県, 千葉.
- Clement P (2000) *Thrushes*. Princeton University Press, Princeton.
- Clements JF (2007) *The Clements Checklist of Birds of the World. Sixth Edition*. Cornell University Press, New York.
- Cooper D・Kay B・池長裕史 (2010) 石川県舩倉島におけるマミジロノビタキ *Saxicola rubetra* の観察記録. *日鳥学誌* 59: 181–184.
- Curson J, Quinn D & Beadle D (1994) *Warblers of the Americas: An Identification Guide*. Houghton Mifflin Company, New York.
- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (1992) *Handbook of the birds of the world. Vol 1. Ostrich to Ducks*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (1994) *Handbook of the birds of the world. Vol 2. New World Vultures to Guineafowl*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (1996) *Handbook of the birds of the world. Vol 3. Hoazin to Auks*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (1997) *Handbook of the birds of the world. Vol 4. Sandgrouse to Cuckoos*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (1999) *Handbook of the birds of the world. Vol 5. Barn-owls to Hummingbirds*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (2001) *Handbook of the birds of the world. Vol 6. Mousebirds to Hornbills*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (2002) *Handbook of the birds of the world. Vol 7. Jacamars to Woodpeckers*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2004) *Handbook of the birds of the world. Vol 9. Cotingas to Pipits and Wagtails*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2005) *Handbook of the birds of the world. Vol 10. Cuckoo-shrikes to Thrushes*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2006) *Handbook of the birds of the world. Vol 11. Old World Flycatchers to Old World Warblers*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2007) *Handbook of the birds of the world. Vol 12. Picathartes to Tits and Chickadees*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2008) *Handbook of the birds of the world. Vol 13. Penduline-tits to Shrikes*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2009) *Handbook of the birds of the world. Vol 14. Bush-shrikes to Old World Sparrows*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2010) *Handbook of the birds of the world. Vol 15. Weavers to New World Warblers*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Elliott A & Christie DA (eds) (2011) *Handbook of the birds of the world. Vol 16. Tanagers to New World Blackbirds*. Lynx Edicions, Barcelona.
- Dickinson EC (ed) (2003) *The Howard and Moore Complete Checklist of the Birds of the World. 3rd Edition*. Christopher Helm, London.
- Dunn JL & Garrett KL (1997) *A Field Guide to Warblers of North America*. Houghton Mifflin Company, New York.
- 富士元寿彦 (1980) 北海道ペンケ沼でシロオオタカ *Accipiter gentilis albidus* を初記録. *山階鳥研報* 12(2): 口絵.
- 福地利供 (1976) ミナミメンフクロウとオウチュウの発見記. *野鳥* 41(12): 18–19.
- 福嶋信夫・福嶋令子 (2009) 長崎県雲仙市千々石町におけるホイグリーンカモメ *Larus heuglini*, ニシセグロカモメ *L. fuscus*, アイスランドカモメ *L. glaucooides* の記録. *山階鳥学誌* 41: 18–33.
- 古市幸士・曾根俊二・遠山穎輔・岩田篤志 (2010) セアカモズ *Lanius collurio* の香川県初記録. *日鳥学誌* 59: 189–193.
- 後藤義仁 (2007) マキバタヒバリ観察記録. *あまみやましぎ* (68): 18–21.
- 羽賀秀樹・奴賀俊光 (2009) 千葉県銚子市におけるキジカッコーウ *Eudynamis taitensis* の日本初記録. *日鳥学誌* 58: 206–207.
- 羽地邦雄・砂川栄喜・池長裕史 (2011) 沖縄県多良間島におけるナンキンオシ *Nettapus coromandelianus* の観察記録. *日鳥学誌* 60: 246–249.
- 橋本幸三 (2007) 沖縄本島に舞い降りたカタゲロトビ.

- Birder 21(10): 20.
- 橋本宣弘 (2007) 日本におけるミズカキチドリ *Charadrius semipalmatus* の初記録. 山階鳥学誌 39: 27-30+口絵 1-2.
- 波多野邦彦・渋谷 朗・岡部海都・池長裕史 (2011) 福岡県福津市における Rosy Pipit, *Anthus roseatus* の国内初記録. 日鳥学誌 60: 257-261.
- 初野 謙 (2003) 東京湾におけるアメリカハシグロクロハラアジサシの観察. Birder 17(10): 102-103.
- 初野 謙 (2004) アイスランドカモメの識別について. Birder 18(1): 47-49.
- 初野 謙 (2009) ウスハイロチュウヒと近似種の識別. Birder 23(8): 46-49.
- 林 吉彦 (2008) シベリアヨシキリ放鳥記. バンダーニュース (39): 8-9.
- 方 偉宏 (2008) 台湾鳥類全圖鑑. 貓頭鷹出版, 台北.
- 東出慎次 (2011) 巨椋に珍種マキバタヒバリ. そんぐぼすと (169): 23.
- 平野賢次 (編) (1999) 石川野鳥年鑑 1998. 日本野鳥の会 石川支部, 金沢.
- 平野賢次 (編) (2000) 石川野鳥年鑑 1999. 日本野鳥の会 石川支部, 金沢.
- 平野賢次 (編) (2001) 石川野鳥年鑑 2000. 日本野鳥の会 石川支部, 金沢.
- 平野賢次 (編) (2002) 石川野鳥年鑑 2001. 日本野鳥の会 石川支部, 金沢.
- 平野賢次 (編) (2004) 石川野鳥年鑑 2002. 日本野鳥の会 石川支部, 金沢.
- 平野賢次 (編) (2005) 石川野鳥年鑑 2004. 日本野鳥の会 石川支部, 金沢.
- 平野賢次 (編) (2006) 石川野鳥年鑑 2005. 日本野鳥の会 石川支部, 金沢.
- 平野賢次 (編) (2007) 石川野鳥年鑑 2006. 日本野鳥の会 石川支部, 金沢.
- 平野賢次 (編) (2008) 石川野鳥年鑑 2007. 日本野鳥の会 石川支部, 金沢.
- 平野賢次 (編) (2009) 石川野鳥年鑑 2008. 日本野鳥の会 石川, 金沢.
- 平野賢次 (編) (2011) 石川野鳥年鑑 2010. 日本野鳥の会 石川, 金沢.
- 平野賢次 (編) (2012) 石川野鳥年鑑 2011. 日本野鳥の会 石川, 金沢.
- 平野賢次 (編) (2013) 石川野鳥年鑑 2012. 日本野鳥の会 石川, 金沢.
- 平野賢次・尾崎雄二 (2002) 石川県におけるヤドリギツグミの初記録. Strix 20: 179-180.
- 平野賢次・橋 映州 (2002) 日本におけるシロビタイジョウビタキの初記録. Strix 20: 175-177.
- 平田和彦・倉沢康大・丸鬼 遊・石川隆史 (2006) 北海道天売島におけるコウテンシ *Melanocorypha mongolica* の日本初記録. 日鳥学誌 55: 102-104.
- 星子廉彰 (1997) 日本におけるオオハクガン *Anser caerulescens atlanticus* の初記録. 山階鳥研報 29: 108-110.
- 池 英夫・池長裕史 (2010) 神奈川県鎌倉市で観察されたキツタアメリカムシクイ *Dendroica coronata* の日本初記録. 日鳥学誌 59: 194-197.
- 池長裕史・川上和人・柳澤紀夫 (2012) 検討種の取り扱いについて. 日鳥学誌 61: 158-176.
- 今井 敦・野村 明・五百澤日丸・池長裕史 (2011) 沖縄県与那国島におけるクロエリヒタキ *Hypothymis azurea* の日本初記録. 日鳥学誌 60: 110-113.
- 今井光雄・小沢重雄・榛葉忠雄 (1986) Bonaparte's Gull *Larus philadelphia* の渡来. 日鳥学誌 35: 33.
- 稲田浩三 (2000) 鳥だより. このはずく (39): 11.
- 井上元則 (1981) 日本におけるノドアカツグミ *Turdus ruficollis ruficollis* の新記録. 鳥 29: 148-149.
- 五百沢日丸 (1991) 与那国島のシロガシラ. 日本の生物 5(3): 44-47.
- 五百沢日丸 (2004) ハクセキレイの観察・2 題. Birder 18(6): 66-68.
- 五百沢日丸・岡部海都 (2004) 日本におけるアナツバメ類の観察と記録. Birder 18(10): 67-69.
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版, 東京.
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2004) 日本の鳥 550 山野の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
- 板谷浩男・由井わたる (2012) 山形県酒田市飛島におけるイワバホオジロ *Emberiza buchanani* の観察記録. 日鳥学誌 61: 148-150.
- 伊藤泰夫・小松吉蔵・三富一裕・千葉 晃 (2009) 新潟市関屋海岸における亜種チョウセンウグイス *Cettia diphone borealis* の標識記録. 日本鳥類標識協会誌 21(2): 45-51.
- 伊藤恭博 (2005) 日本におけるミカヅキシマアジの初記録. Strix 23: 173-174.
- 籠島忠介 (2004) セグロカモメ (キアシセグロカモメ) 亜種 *mongolicus* の九州における冬期渡来状況. Strix 22: 221-226.
- 梶田 学・真野 徹・佐藤文男 (2002) 沖縄島に生息するウグイス *Cettia diphone* の二型について—多変量解析によるリュウキュウウグイスとダイトウウグイスの再評価—. 山階鳥研報 33: 148-167.
- 神谷 要 (2008) 米子水鳥公園において捕獲された本州初記録のチョウセンウグイスについて. ホシザキグリーン財団研究報告 (11): 303-306.
- 加藤大貴・加藤禎人・池長裕史 (2009) 千葉県三番瀬におけるヒメカモメ *Larus minutus* の観察記録. 日鳥学誌 58: 108-111.
- Kawakami K, Eda M, Horikoshi K, Suzuki H, Chiba H & Hiraoka T (2012) Bryan's Shearwaters have survived on the Bonin Islands, Northwestern Pacific. Condor 114: 507-512.
- 川路則友・平岡 考・池長裕史・梶田 学・亀谷辰朗・金井 裕・西海 功・柳澤紀夫 (2003) 日本産鳥類記録リスト (3). 日鳥学誌 52: 126-135.
- 川崎康弘 (2004) 珍鳥よ, 北の大地に舞い降りよ!. Birder 18(6): 36-37.
- 風間辰夫・土田崇重 (2007) 日本で初採取されたチャバラアカゲラ *Dendrocopos hyperythrus* について. 山階鳥学誌 39: 124-126.
- Keiji GO (1996) オオハシウミガラス *Alca torda* の日本古記録 (英文). 山階鳥研報 28: 42-44.
- Kennerley P & Pearson D (2010) *Reed and Bush Warblers*. Christopher Helm, London.
- 菊地正太郎・松本千枝子 (2005) 西表島におけるバンケ

- ンの観察記録. *Strix* 23: 175–179.
- 菊地正太郎・姚 正得・外山 茂・松本千枝子・西海功 (2008) クロアゴヒメアオバト *Ptilinopus leclancheri* の日本初記録及び亜種 *P. l. taiwanus* についての検討. *山階鳥学誌* 40: 13–22.
- 木村 啓・鈴木耕平 (2003) バードウォッチャーの鳥見帳 カタグロトビ. *Birder* 17(1): 59.
- 桐原政志・杉坂 学 (2002) 石垣島に初記録のハクセキレイ亜種出現. *Birder* 16(10): 62–63.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥 550 水辺の鳥. 文一総合出版, 東京.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸 (2009) 日本の鳥 550 水辺の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
- 小林茂樹 (2010) 珍鳥情報 ミズカキチドリか?. *新潟野鳥* (151): 7.
- 小堀脩男・武田 稔・内貴英男・池長裕史 (2007) 石川県船倉島におけるチャバラアカゲラ *Dendrocopos hyperythrus* の観察記録. *日鳥学誌* 56: 60–62.
- 河野裕美・水谷 晃 (2011) 日本におけるカツオドリ亜種 *Sula leucogaster brewsteri* の初記録 (英文). *山階鳥学誌* 42: 147–153.
- 近藤健一郎 (2012) 佐渡にインドガンが飛来. *新潟野鳥* (158): 10.
- 小杉和樹 (2001) セアカジョウビタキ *Phoenicurus erythronotus* の観察記録 (速報). *北海道野鳥だより* (123): 12.
- 小山 駿 (2009) ウスハイイロチュウヒ幼鳥雄の観察記録. *Birder* 23 (7): 20.
- 小園卓馬・所崎 聡 (2007) 九州におけるオニカッコウの観察初記録. *Strix* 25: 201–204.
- 久保清司・佐藤 満 (2010) 北海道東部におけるヨーロッパコマドリ *Erithacus rubecula* の観察例. *山階鳥学誌* 41(2): 212–213.
- 桑原和之・三沢博志・箕輪義隆・野口一誠・繁倉 崇・奴賀俊光・高木 武 (2006) 銚子市鳥類目録. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 14: 71–147.
- Leader PJ & Carey GJ (2012) Zappey's Flycatcher *Cyanoptila cumatilis*, a forgotten Chinese breeding endemic. *Forktail* 28: 121–128.
- 前田崇雄・米森美州・池長裕史 (2008) 山口県見島におけるウタズメ *Melospiza melodia* の観察記録. *日鳥学誌* 57: 160–163.
- 真木広造・大西敏一 (2000) 日本の野鳥 590. 平凡社, 東京.
- Martens J, Sun YH & Päckert M (2008) Intraspecific differentiation of Sino-Himalayan bush-dwelling Phylloscopus leaf warblers, with description of two new taxa (*P. fuscatus*, *P. fulgiventis*, *P. affinis*, *P. armandii*, *P. subaffinis*). *Vertebrate Zoology* 58: 233–265.
- McWhirter DM, Ikenaga H, Iozawa H, Shoyama M & Takehara K (1996) A check-list of the birds of Okinawa prefecture with notes on recent status including hypothetical records. (最近の生息状況と参考記録を含めた沖縄県産鳥類目録). *沖縄県立博物館紀要* (22): 33–152.
- 三田長久 (2010) 熊本県立田山におけるオウチュウカウのさえずりの記録. *Bird Research* 6: S13–S16.
- 三浦二郎 (1993) 利尻島におけるチョウセンウグイス *Horeites cantans borealis* (Campbell) の Banding について利尻町博物館年報 (12): 31–32.
- 宮 彰男・高橋雅雄 (2012) 青森県におけるオウチュウ *Dicrurus macrocercus* の初記録. *Strix* 28: 105–108.
- 宮崎県環境森林部自然環境課・第 59 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」記念誌編集検討委員会 (編) (2005) みやざきの野鳥. 日本野鳥の会宮崎県支部, 宮崎.
- 宮崎八州雄 (2008) アメリカオグロシギ *Limosa haemastica* の日本初記録. *Strix* 26: 177–180.
- 宮崎八州雄・瀬井俊和 (2007) アメリカオグロシギ発見記. *Birder* 21(8): 69.
- 宮澤孝仁・宮澤美紀 (2013) 奄美大島におけるミナミクイナの初記録. *Strix* 29: 139–141.
- 宮島 仁・山城正邦・田仲謙介 (2012) 沖縄県国頭郡金武町におけるヨーロッパムナグロ *Phuvalis apricaria* の日本初記録. *日鳥学誌* 61: 310–313.
- 森岡弘之・高野伸二・黒田長久 (1978) 日本鳥類目録 (1974) 補遺 (第 2 回). *鳥* 27: 113–117.
- 森岡照明 (1997a) 新しい識別の試み 第 1 回 チャキンチョウ? それともズグロチャキンチョウ?. *Birder* 11(5): 80–83.
- 森岡照明 (1997b) 新しい識別の試み 第 6 回 オリーブムシクイ? キバラムシクイ? それともバファイロムシクイ?. *Birder* 11(10): 62–65, 105.
- 森岡照明 (1997c) 新しい識別の試み 第 8 回 アイスランドカモメ. *Birder* 11(12): 62–65, 100.
- 森岡照明 (1998a) 新しい識別の試み 第 9 回 船倉島で観察されたモズ類. *Birder* 12(1): 66–69, 105.
- 森岡照明 (1998b) 新しい識別の試み 第 20 回 イワバホオジロとズアオホオジロ. *Birder* 12(12): 52–55, 92.
- 森岡照明 (1999a) 新しい識別の試み 第 21 回 ノドアカツグミとハチジョウツグミ. *Birder* 13(1): 62–65, 103.
- 森岡照明 (1999b) 新しい識別の試み 第 22 回 今津のマキバタヒバリ. *Birder* 13(2): 62–65, 103.
- 森岡照明 (1999c) 新しい識別の試み 第 29 回 富士川河口のベンガルアジサシ. *Birder* 13(9): 70–73, 105.
- 森岡照明 (2003) バードウォッチャーの鳥見帳 ハクセキレイ本邦初亜種. *Birder* 17(11): 64.
- 森岡照明 (2005a) バードウォッチャーの鳥見帳 クロノビタキ雌. *Birder* 19(2): 52.
- 森岡照明 (2005b) バードウォッチャーの鳥見帳 船倉島のツグミ類. *Birder* 19(4): 52–53.
- 森岡照明・Birder 編集部 (2004) 珍鳥・迷鳥 Spot mapping. *Birder* 18(6): 30–31.
- 森岡照明・初野 謙 (2003) 2003 年上半期日本に舞い降りた珍鳥たち. *Birder* 17(9): 44–47.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男 (1995) 図鑑 日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 森河貴子・森河隆史 (2008) 与那国の野鳥を訪ねて. 個人出版.
- 本若博次 (2001) 「バンケン」日本初記録. *Birder* 15(8): 38–39.
- 無記名 (2011) 訂正. *Birder* 25(8): 80.
- 永田尚志・石本あゆみ (2000) 茨城県におけるサバンナシトド *Passerculus sandwichensis* の捕獲記録. *日鳥学誌* 49: 55–58.
- 名古屋市農政緑地局管理部農政課 (1994) 名古屋市野鳥

- 生息状況調査報告書 名古屋の野鳥. 財団法人名古屋
市公園緑地協会, 名古屋.
- 中島京也・中島知也・中島欣也 (2006) 外来種猛禽類の
発見状況. 日本鳥学会 2006 年度大会ポスター発表.
- 中村一恵・寺沢孝毅 (1986) 北海道天売島で観察された
コクマルガラスについて. *Strix* 5: 65–68.
- 中村正男 (2012) 鳥信 ヨーロッパムナグロ. 石川の野鳥
(164): 7.
- 中村正男・矢田新平・池長裕史 (2013) 石川県の河北潟
干拓地におけるヨーロッパムナグロ *Pluvialis apricaria*
の本州初記録. 日鳥学誌 62: 189–191.
- 中村 豊・高野橋 豊・麻生 瞭・高野橋登志子・首藤
直美・佐藤小百合・下川五三子 (2003) 国内における
ヒメウミスズメの記録. 日鳥学誌 52: 122–123.
- 日本鳥学会 (1958) 日本鳥類目録 (改訂四版). 日本鳥学
会, 東京.
- 日本鳥学会 (1974) 日本鳥類目録改訂第 5 版. 学習研究
社, 東京.
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第 7 版. 日本鳥学
会, 三田.
- 日本鳥類目録編集委員会 (2000) 日本鳥類目録改訂第 6
版. 日本鳥学会, 帯広.
- 日本産鳥類記録委員会 (2004) 日本産鳥類記録リスト
(4). 日鳥学誌 53: 110–119.
- 日本産鳥類記録委員会 (2005a) 日本産鳥類記録リスト
(5). 日鳥学誌 54: 60–66.
- 日本産鳥類記録委員会 (2005b) 日本産鳥類記録リスト
(6). 日鳥学誌 54: 110–122.
- 日本産鳥類記録委員会 (2006) 日本産鳥類記録リスト
(7). 日鳥学誌 55: 120–127.
- 日本産鳥類記録委員会 (2007) 日本産鳥類記録リスト
(8). 日鳥学誌 56: 192–196.
- 日本産鳥類記録委員会 (2008) 日本産鳥類記録リスト
(9). 日鳥学誌 57: 165–170.
- 日本野鳥の会青森県支部／弘前支部 (2001) 青森の野鳥.
東奥日報社, 青森.
- 日本野鳥の会編集委員会 (1981) 野鳥情報 シロオオタカ 1.
野鳥 46(6): 30–31.
- 日本野鳥の会編集室 (1988) フィールドノート. 野鳥
53(11): 41.
- 日本野鳥の会神奈川支部 (2007) 神奈川の鳥 2001-05—神
奈川県鳥類目録 V—1. 日本野鳥の会神奈川支部, 横
浜.
- 日本野鳥の会研究センター (1996) フィールドノート ミ
カヅキシマアジ雄若 1. 野鳥 61(5): 44–45.
- 日本野鳥の会熊本県支部 (熊本野鳥の会) (2011a) 野鳥
情報. 野鳥くまもと (282): 6–12.
- 日本野鳥の会熊本県支部 (熊本野鳥の会) (2011b) 野鳥
情報. 野鳥くまもと (284): 8–13.
- 日本野鳥の会長崎県支部 (2010) フィールドノートから.
つばさ (277): 12.
- 日本野鳥の会佐渡支部 (2013) 稀鳥・珍鳥・迷鳥. いそ
ひよ (23): 5–6.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1986) 野鳥情報・観察記
録 1984.9–1986.7. *Strix* 5: 89–98.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1987a) フィールドノート
カナダカモメ若 1 野鳥情報・観察記録. 野鳥 52(10):
30.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1987b) フィールドノート
カナダカモメ 1 野鳥情報・観察記録. 野鳥 52(11): 32–
33.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1987c) 野鳥情報・観察記
録 1986.8–1987.12. *Strix* 6: 110–118.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1988a) フィールドノート
アカノドカルガモ. 野鳥 53(1): 32–33.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1988b) 日本に舞い降りた
野鳥たち『フィールドガイド日本の野鳥』出版以降の
観察記録から. 野鳥 53(4): 10–21.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1988c) 野鳥情報・観察記
録 1988.1–1988.12. *Strix* 7: 305–308.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1989) 野鳥情報 1989.1–
1989.8. *Strix* 8: 347–349.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1992) 野鳥情報・観察記
録 1991.8–1992.7. *Strix* 11: 377–382.
- 日本野鳥の会野鳥記録検討会 (1997) 野鳥情報・観察記
録 1995.8–1996.7. *Strix* 15: 149–160.
- 西川 猛 (2010) 巨椋干拓地のウスハイイロチュウヒ.
そんぐぼすと (167): 23.
- 西三河野鳥の会愛知県鳥類目録検討委員会 (2008) 愛知
県内における鳥類の観察記録 2. 西三河野鳥研究年報
11: 44–47.
- 野呂一則 (2004) アメリカイソシギ・カナダヅル観察記.
北海道野鳥だより (135): 8–9.
- 野呂一則・久保清司・佐藤 満 (2011) 北海道東部にお
けるアメリカイソシギ *Actitis macularia* の観察例. 山
階鳥学誌 42: 175–176.
- 岡村雄三・福田篤徳 (2001) 波崎町における日本初記録
のワライカモメ観察記. ひばり (241): 9.
- 沖縄野鳥研究会 (編) (2002) 沖縄の野鳥. 新報出版, 那
覇.
- 沖縄野鳥研究会 (編) (2010) 沖縄の野鳥 改訂版. 新星
出版, 那覇.
- 奥土晴夫 (2012) 波照間島の自然. 新星出版, 那覇.
- 大西敏一・真木広造 (2004a) 沖縄県与那国島におけるタ
イワンショウドウツバメ *Riparia paludicola* の日本初記
録. 日鳥学誌 53: 45–46.
- 大西敏一・真木広造 (2004b) 沖縄県与那国島におけるカ
ンムリオウチュウ *Dicrurus hottentottus* の日本初記録.
日鳥学誌 53: 47–48.
- 大西敏一・梅垣佑介・小島 渉 (2010) 石川県輪島市舩
倉島におけるムナフヒタキ *Muscicapa striata* の日本初
記録. 日鳥学誌 59: 185–188.
- Onley D & Scofield P (2007) *Albatrosses, Petrels, and Shear-*
waters of the World. Princeton University Press, Princeton.
- 大杉健二 (2002) 静岡県におけるアメリカオオハシシギ
の記録. *Strix* 20: 189–191.
- 大関義明・楠窪のり子 (2005) 千葉県銚子市, 茨城県波
崎町におけるチャガシラカモメ *Larus brunnicapalus*.
日鳥学誌 54(1): 53–55.
- 大谷 力 (2004) 沖縄県石垣島におけるヤマガラを観察
記録. 日鳥学誌 53: 104–106.
- Polivanov VM (1981) プリモーリエの樹洞営巣性鳥類の
生態. ナウカ出版, モスクワ. 藤巻裕蔵 (訳) (2005)
極東の鳥類 No.22. 極東鳥類研究会.

- Pyle P, Welch AJ & Fleischer RC (2011) A New Species of Shearwater (*Puffinus*) Recorded from Midway Atoll, Northwestern Hawaiian Islands. *Condor* 113: 518–527.
- 齋藤武馬・西海 功・茂田良光・上田恵介 (2012) メボソムシクイ *Phylloscopus borealis* (Blasius) の分類の再検討: 3つの独立種を含むメボソムシクイ上種について. *日鳥学誌* 61: 46–59.
- 坂梨仁彦 (2012) 熊本県熊本市におけるオニカッコウ *Eudynamys scolopaceus* の落鳥記録. *日鳥学誌* 61: 299–303.
- 佐々木 均・佐々木あさ子 (1999) 山形県酒田市飛鳥におけるヨーロッパコマドリの観察. *Strix* 17: 205–208.
- 佐々木 均・佐々木あさ子・浜谷武雄・浜谷まり子・杉本明日子 (2007) 秋田県におけるアメリカズグロカモメの観察記録. *Strix* 25: 175–183.
- 佐々木裕子・中野栄明・中根敏雄・小泉金次・二木 務 (2004) 静岡県富士川河口のキョクアジサシ. *Strix* 22: 215–220.
- 佐竹忠義・湯浅 健・松井敬子 (2011) 大阪府深北緑地におけるナンキンオシ *Nettapus coromandelianus* の記録. *日鳥学誌* 60: 254–256.
- 佐藤 圭 (2012) ハシグロアビの記録 (稚内市抜海港). *北海道野鳥だより* (169): 7.
- 佐藤重穂・高橋 徹・小林靖英・橋田晃浩 (2010) 高知市におけるバライロムクドリの越冬事例. *Bird Research* 6: S1–S6.
- 佐藤 進 (2009) 日本の珍鳥映像図鑑—野鳥たちとの奇跡の遭遇—. (株) シンフォレスト. 東京. 【DVD】
- 関 伸一・所崎 聡・溝口文男・高木慎介・仲村 昇・ファーガス・クリスタル (2011) トカラ列島の鳥類相. *森林総合研究所研究報告* 10: 183–229.
- 先崎啓究 (2008) 日本におけるカナダカモメ *Larus thayeri* の渡来と換羽の状況. *Strix* 26: 219–225.
- 茂田良光 (1993) 形態と識別 18 カモメ—日本に渡来する亜種の検討. *Birder* 7(4): 36–41, 73.
- 茂田良光 (2001) 日本に渡来するハマシギ. *Birder* 15(10): 42–47.
- 茂田良光 (2003) 日本からの亜種チョウセンオオルリの確実な初記録. *山階鳥研報* 34: 309–313.
- 白石久善・高木慎介・塚原和之 (2011) 横島干拓で観察されたニシコクマルガラス *Corvus monedula* とコクマルガラス *Corvus dauuricus* の交雑個体と考えられるガラス類. *野鳥くまもと* (283): 17–18.
- 静岡の鳥編集委員会 (1998) 静岡県の鳥類. 静岡県環境部自然保護課, 静岡.
- 静岡の鳥編集委員会 (編) (2010) 静岡県の鳥類 第2版. 静岡の鳥編集委員会, 静岡.
- Skopets MB & Dorogoy IV (2002) The records of the bald eagle *Haliaeetus leucocephalus* on Kunashir Island. *Russian Journal of Ornithology. Express-issue* (173): 70–71. 【邦訳】
- Skopets MB & Dorogoy IV (2003) 国後島におけるハクトウワシ *Haliaeetus leucocephalus* の迷行. *極東の鳥類* (20): 86–87.
- Stempniewicz L, Skakuj M & Iliszko L (1996) The little auk *Alle alle polaris* of Franz Josef Land: a comparison with Svalbard *Alle a. alle* populations. *Polar Research* 15: 1–10.
- 砂川栄喜 (2011) 沖縄 宮古の野鳥 亜熱帯の水辺, 山野の鳥. ボーダーインク, 那覇.
- 橘 映州 (1999) 舢倉の鳥たち—能登半島沖 50 km—. 橋本確文堂, 金沢.
- 橘 映州 (2008) 続・舢倉の鳥たち—能登半島沖 50 km—. 橋本確文堂, 金沢.
- 橘 映州・岡村雄三 (2006) 日本におけるハイイロチャツグミ *Catharus minimus* の初記録. *Strix* 24: 123–126.
- 多田弘一 (2004) 津市御殿場海岸の珍客—ヒメミズナグドリ属の一種の識別に燃えた熱い日々!—. *しろちどり* (44): 13–15.
- 高木慎介 (2011) 鹿児島県トカラ列島平島におけるヒメウタイムシクイ *Hippolais caligata* の観察記録. *日鳥学誌* 60: 114–117.
- 高田賢一郎 (2009) 新潟県岩船郡粟島におけるクロノビタキの観察記録. *日鳥学誌* 58: 112–113.
- 高原建二・池長裕史・金城道男・渡久地 豊・金城輝雄・庄山 守 (2000) 沖縄県内において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等により確認された興味深い鳥類の記録について—「沖縄産鳥類目録」補遺—. *沖縄県立博物館紀要* (26): 27–46.
- 高原建二・前原一統・嘉手苅初子・松田史郎 (2001) 久米島における最近の鳥類記録について. *久米島自然文化センター紀要* (1): 1–19.
- 高原建二・宮城 修 (2010) 22年ぶり, 国内2例目のオウチュウカッコウの観察. *Birder* 24(12): 50.
- 高原建二・砂川栄喜・比嘉邦昭・宮城国太郎・高良淳司・金城輝男・仲地邦博・長嶺 隆 (2008) 沖縄県内における2003年から2006年までの稀な鳥類の飛来記録と希少な繁殖記録について. *南島文化* (30): 127–144.
- 高原建二・高良淳司・安和守浩・天野洋祐 (2009) ミツユビカワセミ *Ceyx erithacus* の国内初記録. *日鳥学誌* 58: 208–211.
- 田牧和広 (2001) 利尻島における鳥類の新分布の記録. *利尻研究* (20): 29–34.
- Taylor B (1998) *Rails: A Guide to the Rails, Crakes, Gallinules and Coots of the World*. Pica Press, Sussex.
- Temminck CJ & Schlegel G (1842) Descriptions des oiseaux observés au Japon par les voyageurs Hollandais. In: PF von Siebold (ed) *Fauna Japonica*. Vol II. Aves. Leiden.
- 時田賢一・渡辺義昭 (2001) 硫黄島鳥類目録. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 9: 35–45.
- 所崎 聡 (2000) 鹿児島県におけるミヤマビタキの観察記録. *Birder* 14(11): 66.
- 所崎 聡 (2011) 鹿児島県トカラ列島平島で観察した亜種ツメナガセキレイ. *Birder* 25(9): 48–50.
- 所崎 聡・森田啓三・溝口文男 (2013) 鹿児島県下甌島におけるロクショウヒタキ *Eumyias thalassinus* の九州初記録. *日鳥学誌* 62: 195–198.
- 所崎 聡・所崎香織・砂川栄喜 (2002) 沖縄県におけるバライロムクドリ *Sturnus roseus* の初記録. *日鳥学誌* 51: 122–124.
- 富田直樹・染谷さやか・西海 功・長谷川 理・井上裕紀子・高木昌興 (2010) 北海道天売島における脚の黄色い *Larus sp.* の死体記録. *山階鳥学誌* 42: 79–90.
- 鳥飼久裕・高 美喜男・貞光隆志 (2010) 鹿児島県奄美大島におけるフィリピンペリカン *Pelecanus philippensis* の日本初記録. *日鳥学誌* 59: 65–68.

- 鳥飼久裕・宮田直樹 (2010) フィリピンペリカンの日本初記録. *Birder* 24(9): 50–51.
- 鳥くん・中本純市 (2011) 石垣島に現れたロクショウヒタキ. *Birder* 25(7): 50.
- 対馬野鳥の会事務局 (2009) 2008年(平成20年)島内初認記録. 対馬野鳥の会活動記録. 2008年: 7–11.
- 内田康夫 (1991) 古い記録 新しい記録. 鳥学ニュース (39): 1–2.
- 氏原巨雄・氏原道昭 (1998) 神奈川県内で観察した北米大陸産のカモメ類について. *BINOS* (5): 67–72.
- 氏原道昭 (2007) モンゴルカモメってどんな鳥?. *Birder* 21 (1): 46–49.
- 梅垣祐介・中西栄子 (2013) 輪島市舳倉島におけるキバラムシクイ *Phylloscopus affinis* の記録. 平野賢次 (編) 石川野鳥年鑑 2012: 79–80. 日本野鳥の会石川, 金沢.
- 海辺茂一郎 (1974) 今月の鳥・ハイロトビ. 日本野鳥の会東京支部報 (225): 1.
- 宇山大樹 (2011) 野鳥の記録 与那国島 2002年3月～2007年1月の678日間の観察記録. 文一総合出版, 東京.
- 宇山大樹 (2012) 野鳥の記録 東京～釧路航路の30年 1997年～1999年を中心として. 個人出版.
- van Dijk K, Kharitonov S, Vonk H & Ebginge B (2011) Taimyr Gulls: evidence for Pacific winter range, with notes on morphology and breeding. *Dutch Birding* 33: 9–21.
- 和田祥司・佐藤理夫 (1998) 日本初記録コノドジロムシクイについて. 日本鳥類標識協会誌 13: 8.
- 王嘉雄・吳森雄・黃光瀛・楊秀英・蔡仲晃・蔡牧起・蕭慶亮 (1991) 台湾野鳥圖鑑. 台湾野鳥資訊社, 台中.
- 渡部良樹 (2011) ヤナギムシクイ *Phylloscopus plumbeitarsus* の日本における記録. 山階鳥学誌 42: 164–174.
- 渡部良樹・池長裕史 (2010) 東京都水元公園におけるコノドジロムシクイ *Sylvia curruca* の記録. 日鳥学誌 59: 84–87.
- 渡部良樹・佐々木裕子・小林靖英 (2005) 日本におけるヒメウタイムシクイ *Hippolais caligata* の初記録. 山階鳥研報 37: 14–19.
- 渡辺朝一 (2000) アメリカムナグロ *Pluvialis dominica* の本州への初渡来記録. 山階鳥研報 32: 34–36.
- 渡辺朝一 (2004) 茨城県霞ヶ浦におけるアメリカムナグロの観察記録. *Strix* 22: 227–229.
- 渡辺義昭 (2001) 硫黄島でのワライカモメ発見記. *Birder* 15(1): 18–20.
- 渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団 (2010) 遊水地散歩～環境学習講座『第1回野鳥観察会』実施報告～. 渡良瀬遊水地湿地資料館だより (126): 2.
- 矢吹慎二・森岡照明 (2010) 日本初記録! 銚子沖, シロハラアカアシミズナギドリ *Puffinus creatopus* の観察. *Birder* 24 (3): 50–52.
- 矢田孝 (1998) 風に運ばれて? 珍客チャバラオオルリの撮影に成功. *SCIas* 3(8): 8–9.
- 山形則男 (2001) 愛知県にもワライカモメ出現. *Birder* 15(1): 20–21.
- 山形新聞社 (編) (2011) やまがた野鳥図鑑. 山形新聞社, 山形.
- 山本友紀 (2005) 北海道におけるサバンナシトドの初記録. *Strix* 23: 189–191.
- 山階鳥類研究所 (1993) 平成4年度鳥類観測ステーション報告. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階鳥類研究所 (1994) 平成5年度鳥類観測ステーション報告. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階鳥類研究所 (2002) 平成13年度鳥類標識調査報告書. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階鳥類研究所 (2003) 平成14年度鳥類標識調査報告書. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階鳥類研究所 (2005) 平成16年度鳥類標識調査報告書. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階鳥類研究所 (2006) 平成17年度鳥類標識調査報告書. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階鳥類研究所 (2009) 平成20年度鳥類標識調査報告書. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階鳥類研究所 (2011) 平成22年度鳥類標識調査報告書. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階鳥類研究所 (2012) 平成23年度鳥類標識調査報告書. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 築川堅治・嵩原建二 (2012) 山形県飛鳥と沖縄県座間味島で記録されたコウテンシ. *Birder* 26(10): 52.
- 柳澤紀夫・柳澤秋介 (2008) オオジュウイチに出会った. 新潟野鳥 (142): 8.
- 吉見光治 (1992) 豊かな森の仲間たち. ニライ社, 那覇.
- 吉岡俊朗 (2011) 青森県におけるワライカモメの観察記録. *Strix* 27: 155–158.
- 吉岡俊朗 (2012) ワライカモメの観察記録への補足と訂正. *Strix* 28: 165–166.
- 湯川廣司 (2003) 多摩川河口で観察された稀少種3種について. *BINOS* 10: 115–116.